

Hope



Fun



Support



Encounter



聖学院大学ボランティア活動支援センター  
Seigakuin Volunteer Support Center  
2017 年度事業報告書



Love



Change



Exchange



Care



Smile

『受けるよりは与える方が幸いである』

—新約聖書 使徒言行録 第20章35節





聖学院大学ボランティア活動支援センター 所長  
政治経済学部 教授  
平 修久

2017年度も、ボランティア活動支援センター（ボラセン）にとって充実した1年間でした。一般的に、組織は設立当初勢いがありますが、5、6年経つと階段の踊り場状態になることが多々あります。初期のころの熱意が薄れたり、スタッフが変わり設立趣旨が十分に受け継がれなかったり、事業や活動がマンネリ化したりするためです。

しかし、聖学院大学のボラセンは違います。設立時の熱意が持続しています。コーディネーターやアドバイザーといったスタッフが継続していることが大きいですが、毎年新たに出現するボランティア意識の高い学生も、熱意の温度を維持したり高めたりすることに大いに貢献しています。2011年から始めた釜石市での活動を今後どうするかについて、ボラセンのスタッフと学生で議論した際、教職員の熱意はやや後退していたのに対して、学生の想いが強く、釜石市での活動を続けることにしました。

ただし、活動内容に関しては、釜石市の復興の進展に伴い、釜石の方々との交流や、釜石の方々の活動の支援というように変化してきました。今年度は、「コミュニティサービスマン」 という授業の一環として、釜石の高校生の活動を学生が支援しました。東日本大震災の日に、中学生のお兄さんやお姉さんに手を引かれて避難した小学生の時の体験を、現在の小学生に伝えたいという高校生の想いを、防災教室として実現するために、学生が黒子に徹して支援しました。

別の新しい活動も生まれました。一つは、埼玉県警察署から話があった防犯ボランティア活動です。警察官志望の学生が集まり、グループを「防犯ボランティアチーム STOP!」と名づけ、大学周辺の防犯パトロールを開始しました。また、障がい者施設からの声掛けを受け、精神障がい者と学生との交流会も始まりました。このような外部からの呼びかけとは別に、ボランティア募集の依頼も増加し、その活動内容も多岐にわたり、新規ボランティアのマッチング件数はのべ345件に上りました。夏休みと秋学期が多いことが特徴的です。

このような活動を通して、学生たちは日々自信をつけ、成長しています。いわゆる、学力の一つである、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を体得しています。

今後とも、ボランティア活動支援センターに対するご理解、ご支援、ご指導をお願いいたします。

## 目次

聖学院大学ボランティア活動支援センター設立 6 年を迎えて .....	3
ボランティア活動支援センター        所長 平 修久	
新入生のボランティア意識調査	
―「2017 年度ボランティア活動に関わるアンケート」から― .....	6
センター年間行事一覧.....	11
各事業報告 .....	13
1. ボランティアの人材育成とその担保に関する事業 .....	14
(1) 学内ボランティア団体の育成支援	
(2) 学生サポートメンバー養成講座 (6 期)	
(3) 視野を広げるボランティア教養講座の実施	
2. 学内の諸ボランティア活動の連絡、協力および支援に関する事業.....	18
(1) 学生サポートメンバー (サポメン!) との連携	
(2) 授業等への協力	
(3) ボランティア・まちづくり活動助成事業の実施	
(4) 聖学院大学復興支援ボランティア交通費補助金	
3. 復興支援ボランティア事業 .....	27
ボランティアスタディツアー「よいさっ! プロジェクト4」参加レポートより	
(1) 東日本大震災復興支援ボランティアスタディツアーの実施	
(2) 釜石の高校生×聖学院生による釜石〇〇プロジェクトの実施	
(3) 「東日本大震災を覚えて～礼拝と集い～」の実施	
(4) 釜石小委員会の実施	
(5) 関連機関との連携	
(6) 学生団体：復興支援ボランティアチーム【SAVE】による復興支援活動	
(7) 学生団体：STEP.による復興支援活動	
4. 学外のボランティア活動の紹介とその活動の支援に関する事業.....	38
(1) ボランティアコーディネート業務	
(2) 「夏の“ちょっと” ボランティア体験プログラム」紹介キャンペーン	
(3) 「ボラフェス! 2017」の実施	
(4) 地域イベントへの参画	
(5) 行政、市民活動団体との連携事業	
(6) 学外団体からの相談対応	
(7) コーディネーターのスーパーバイズ	
5. ボランティア活動の記録と広報に関する事業.....	45
(1) ボランティア情報の発信(メルマガ・LINE@/ホームページ・facebook・掲示板)	
(2) ボランティア活動支援センター広報活動	

6. その他の事業.....	47
(1) 視察・研修記録	
(2) 視察受け入れ・活動発表・講師対応・外部委員	
(3) 学内他部署との連携	
(4) 他大学との連携	
<b>資料集.....</b>	<b>51</b>
(1) ボランティア活動支援センター内規	
(2) ボランティア活動支援センター運営委員一覧（2017年度）	
(3) ボランティア活動支援センター運営委員会協議事項	
(4) 学生サポートメンバー養成講座実施レポート	
(5) メディア出演・掲載	
(6) 広報ポスター各種	

# 新入生のボランティア意識調査

## —「2017年度ボランティア活動に関わるアンケート」から—

### 1. 調査の目的と概要

聖学院大学ボランティア活動支援センターでは、新入生のボランティアへの意識や活動の意向を明らかにすることを目的として、本アンケートを実施した。

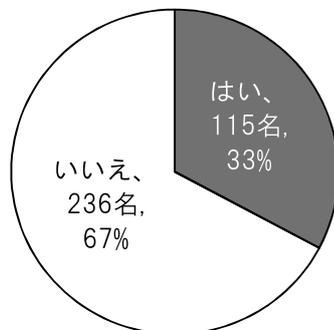
2017年度入学者487名のうち351名から回答を得られた。今後さらに魅力的な活動マッチングや新規プロジェクト立ち上げへの支援などに活かしていくため、このアンケート結果を活用する。

### 2. 調査結果 ※小数点以下は四捨五入で算出

#### (1) 大学入学以前のボランティア活動経験について

大学入学以前に自発的にボランティア活動に参加した経験があるか尋ねたところ(図1)、経験有りと回答が33%(115名)で、経験なしの回答は67%(236名)だった。

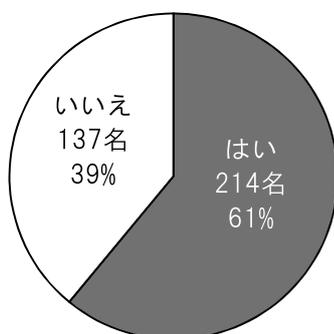
図1-1. 大学入学以前の自発的なボランティア活動経験



#### (2) 大学時代にボランティア活動に参加したいか

本年度、活動希望者は全体の61%(214名)となり、活動参加を希望しない者の39%を大きく上回る結果となった(図2)。新入生のうち、6割の学生が在学中にボランティア活動に参加したい意欲があることがわかった。

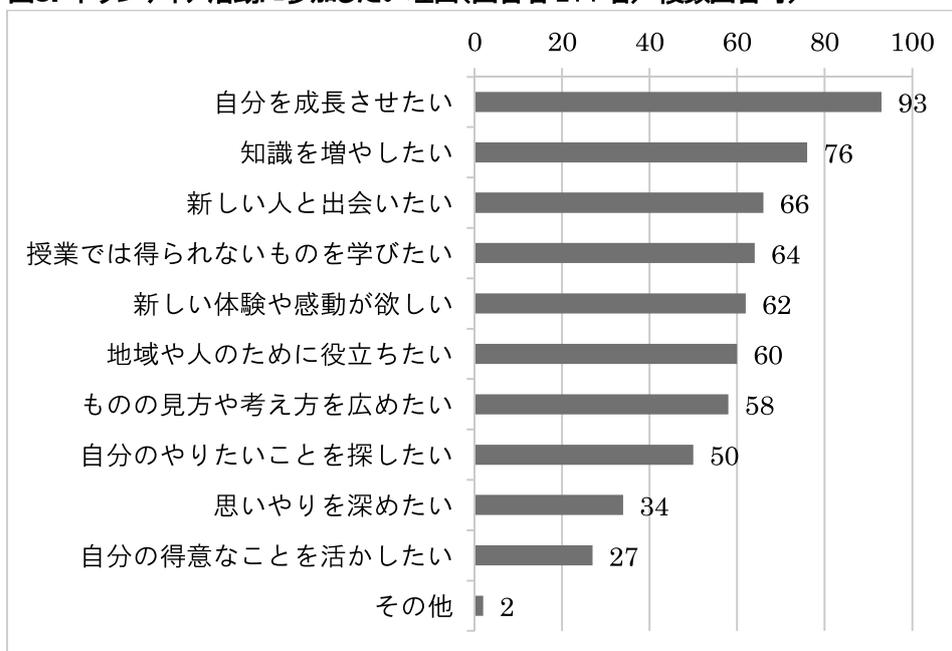
図2-1. 大学時代にボランティア活動に参加してみたいと思うか



### (3) ボランティア活動に参加したい理由

次に、参加希望者（214名）のみを対象に、ボランティア活動に参加したい理由について複数回答で尋ねた（図3）。

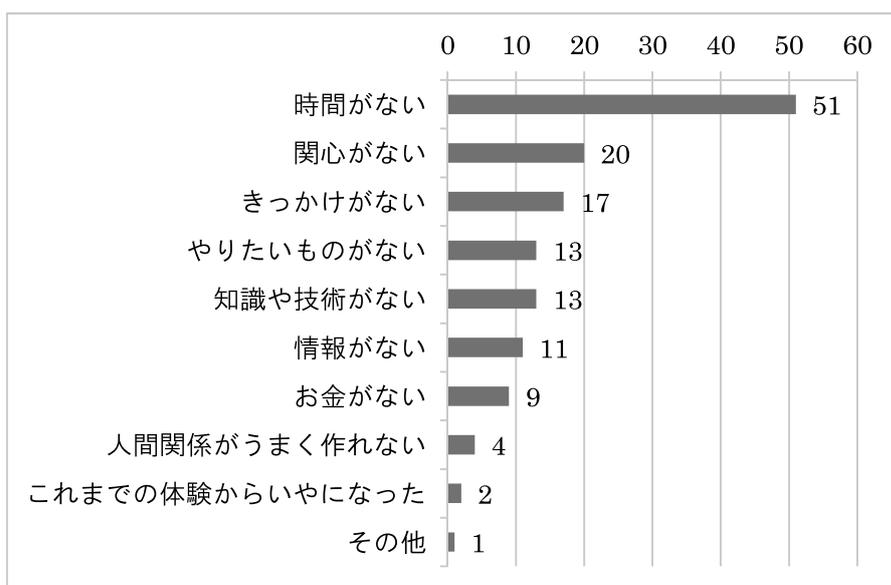
図3. ボランティア活動に参加したい理由(回答者 214名/複数回答可)



### (4) ボランティア活動に参加を希望しない理由

次に、ボランティア活動に参加を希望しない学生（137名）を対象に、参加を希望しない理由を尋ねたところ下記のような結果となった（図4）。

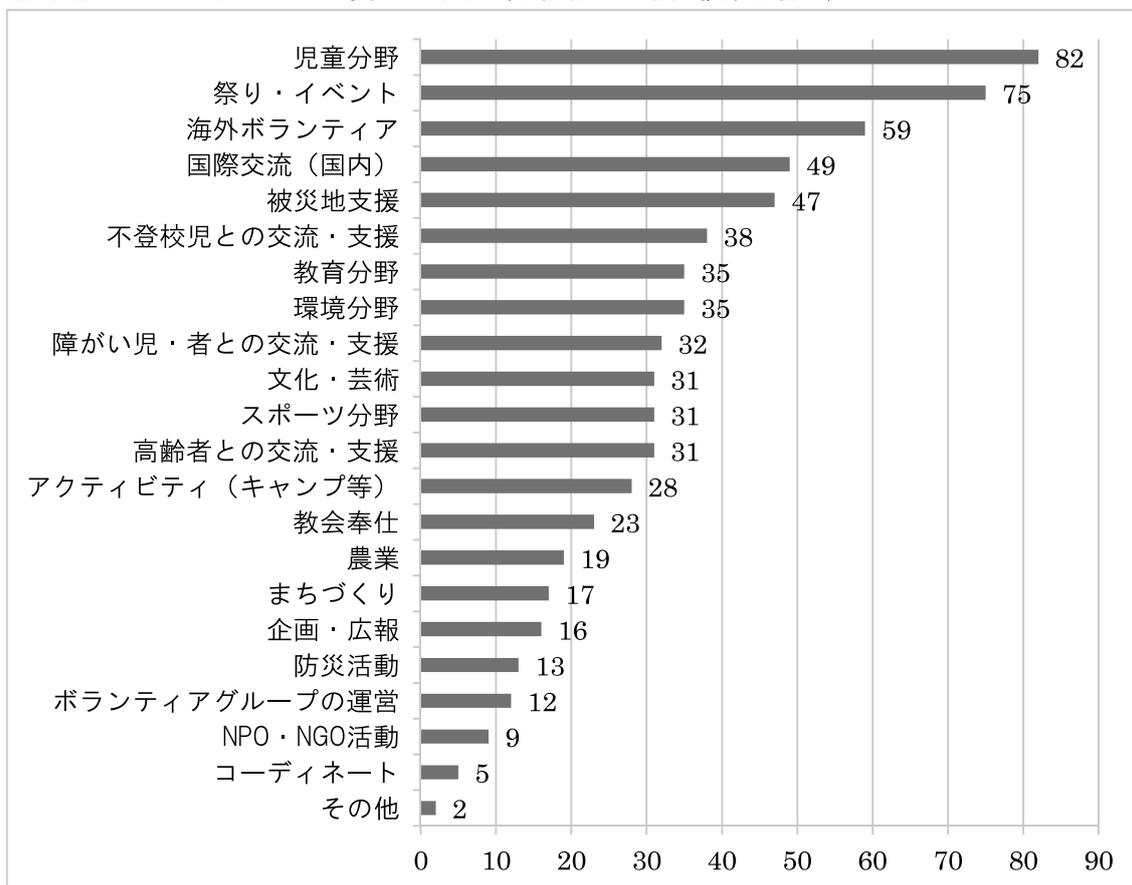
図4. ボランティア活動に参加を希望しない理由(回答者 137名/複数回答可)



### (5) 関心があるボランティア活動について

関心があるボランティア活動の分野を複数回答で尋ねたところ（図5）、最も多かったのは「児童分野 82名」で、次に多かったのが「祭り・イベント 75名」であった。

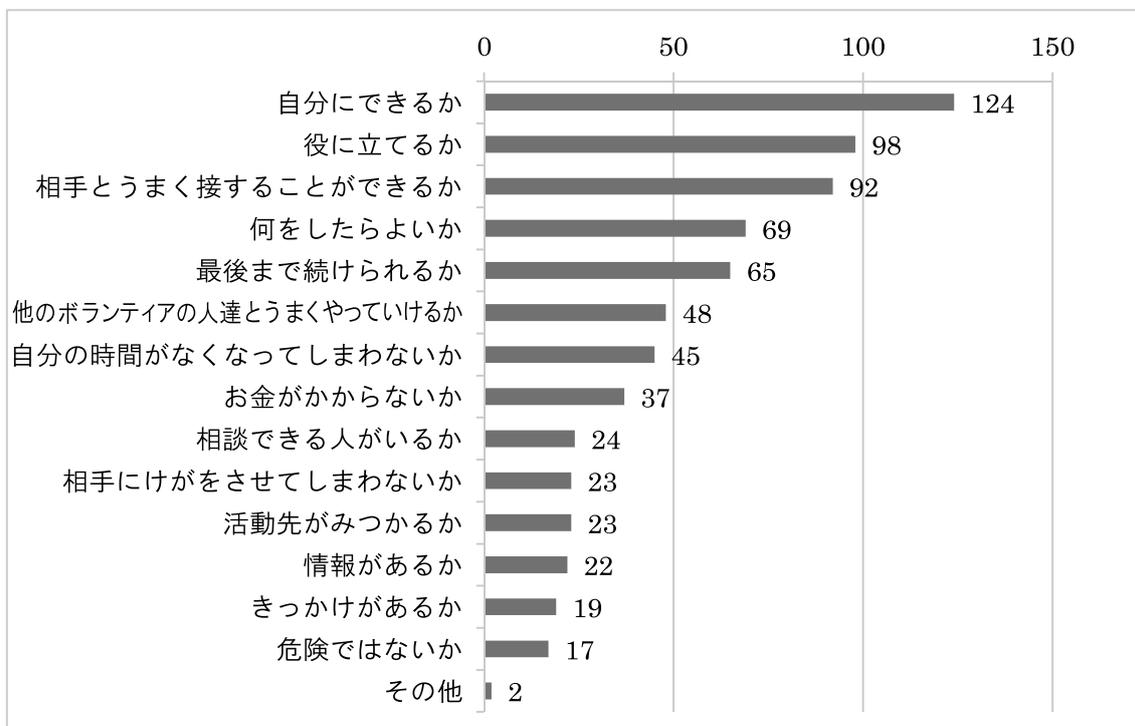
図5. どのようなボランティアに関心があるか(回答者 351名/複数回答可)



(6) ボランティア活動を始めるにあたっての心配や不安

こちらの問いも、複数回答にて尋ねたところ(図6)、「自分にできるか」124人「役に立てるか」98人「相手とうまく接することができるか」92人の3項目が上位を占めた。

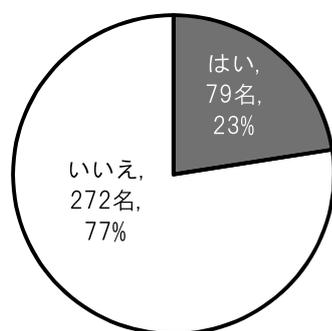
図6. ボランティア活動を始めるにあたっての心配や不安(回答者 351 名/複数回答可)



(7) ボランティアセンターの認知度

ボランティア活動支援センターの存在を入学時に認知していた新入生の割合は 23%であった(図7)。

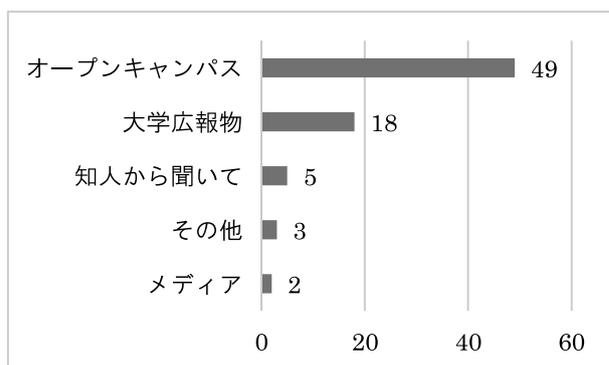
図7. 入学前に、ボランティア活動支援センターを知っていたか



**(8)入学前にどのようにボランティア活動支援センターがあることを知ったか**

図7で「はい」と答えた方を対象に、入学前にどのようにボランティア活動支援センターがあることを知ったかを尋ねたところ、多かったのは「オープンキャンパス 49名」続いて「大学広報物 18名」であった。

**図8. 入学前にどのようにボランティア活動支援センターがあることを知ったか  
(回答者 79名/複数回答可)**



## センター年間行事一覧(主催・共催・協力事業等)

月	日	概要
2017年4月	5日	<b>第57回センター運営委員会</b>
	10日、13日	「新歓ボラ Tea」実施
	15日～16日	ボランティアスタディツアー「桜プロジェクト6」実施 (岩手県釜石市)
5月	10日	<b>第58回センター運営委員会</b>
	22日、23日	「ボランティア・まちづくり助成」応募説明会
	27日	オープンキャンパス参加
6月	5日～26日	学生サポートメンバー養成講座(計4回実施)
	10日	「ほたる祭り」実施
	7日	<b>第59回センター運営委員会</b>
	17日	オープンキャンパス参加
	24日	「ボランティア・まちづくり活動助成」公開審査会実施
7月	5日	「ボラ Tea」実施 <b>第60回センター運営委員会</b>
	22日	オープンキャンパス参加
	4日～7日	ボランティアスタディツアー「よいさっ!プロジェクト4」実施 (岩手県釜石市、宮城県名取市)
8月	5日、18日	オープンキャンパス参加
	29日	ハンセン病資料館見学会(東京都清瀬市)
	9月	16日
10月	4日	<b>第61回センター運営委員会</b>
	14日	オープンキャンパス参加
	15日	上尾市大谷支所主催「コミ協フェスタ in 大谷」参加

	22日	さいたま北商工協同組合主催「さいたまKI-TAまつり2017」協力（さいたま市北区）
11月	3日、4日	ヴェリタス祭（学園祭）にて「ボラフェス!2017」実施
	8日	<b>第62回センター運営委員会</b>
	11日、12日	上尾市主催「第44回上尾産業祭」参加
	25日、26日	上尾消費生活展実行委員会主催「第35回上尾消費生活展」参加
12月	1日～3日	ボランティアスタディツアー「サンタプロジェクト7」実施（岩手県釜石市）
	6日	<b>第63回センター運営委員会</b>
	16日	上尾市大谷地区自主防災連合会「防災啓発研修」共催
	19日	「ボラ年会」実施
2018年1月	10日	<b>第64回センター運営委員会</b>
	11日	「ボランティア・まちづくり活動助成」報告会
2月	7日	<b>第65回センター運営委員会</b>
	15日	聖学院大学防犯ボランティアチームSTOP!結団式
	16日	さいたま市北区障害者生活支援センターベルベッキオとの交流会実施
	27日	釜石〇〇プロジェクト防災講座
3月	9日	「3.11を覚える集い」実施
	12日	聖学院高等学校生徒会主催「僕たちに今、出来ること」実施協力
	13日～14日	学生サポートメンバー強化合宿実施
	18日	NPO 法人彩の子ネットワーク主催 「こども☆夢☆未来フェスティバル2018」参加

# **各事業報告**

---

# 1. ボランティアの人材育成とその担保に関する事業

## (1)学内ボランティア団体の育成支援

センターでは個人のボランティア相談のほか、団体の活動相談にも応じている。活動に関するアドバイスや役立つ情報の提供に限らず、必要に応じてファシリテーターとして団体の会議に出向くこともしている。

主な相談内容：

- ・組織運営に関すること
- ・メンバー間のコミュニケーションに関すること
- ・新入生のまきこみ方
- ・メンバーのモチベーションアップに関すること
- ・広報に関すること
- ・イベント出展内容に関して など

## (2)学生サポートメンバー養成講座(6期)

学生と共につくる・育つセンターとして力を入れている、学生サポートメンバー（通称：サポメン）の養成も6期目を迎えた。サポメンは、ボランティアを実践している学生自身が、他の学生を巻き込み、ボランティアのきっかけをつくるとともに、学内外の学生ボランティアを盛り上げるための企画・運営を行う役割が期待されている。そのため、現役サポメンの協力も得て養成講座を実施し、サポメンとして必要となる考え方や基礎的な知識・技術を体験的に学び、終了後はサポメンとして活躍していけるよう支援している。同時に講座を通して、受講生同士・先輩サポメン・コーディネーター・他大学の学生との関係づくりも図っている。

### i)企画概要

#### ① 「学生サポートメンバーの役割と可能性」

第1回ということで、なぜサポメン講座を実施しているのかボランティア活動支援センタースタッフより説明し、さらに現在サポメンとして活動する先輩より活動の意義と魅力を紹介した。後半では、学生のボランティアの一步を後押しする策を考え、発表。受講生たちは「サポメンになる」その大きな一步を踏み出した。

日 時：2017年6月5日(月)18:00~20:30

参加者：6期生5名、5期生1名、4期生2名 参加者計8名

内 容：・サポメン講座趣旨説明（サポメンとボラセンの歴史、役割、願い）

・現役サポメンから「サポメンの活動と魅力」について一言

・参加者全員の自己&他己紹介（アイスブレイク）

※現サポメンがファシリテーションを担当。

・ワーク：テーマ「ボランティアの一步踏み出せない原因と解決策を考えよう」

#### ② 「みんなでアイスブレイク100連発!？」

ボランティア活動の場で出会った人たちの緊張感をほぐし安心して活動に取り組むことができるよう、各所で取り入れられているアイスブレイクについて、講師を招いて学んだ。「アイスブレイクとは?」というレクチャーのあと、ボランティア先などで使えるアイスブレイクを参加者全員が実際に進めた。

日 時：2017年6月12日(月)18:00~20:30

参加者：6期生5名、4期生2名、ボランティア活動学生5名 参加者計12名

講 師：NPO法人ハンスオン埼玉常務理事 西川正さん

内 容：・レクチャー「アイスブレイクとは？」

- ・アイスブレイクをやってみる
- ・ふりかえり

### ③ 「学内外のボランティア活動を知る」

ボランティアをしたい学生を実際の活動につなげるには、学生が参加できるボランティア活動についての情報・理解が不可欠となる。そこで、「ボランティア・まちづくり活動助成金公開審査会」にスタッフとして参加し、公開審査プレゼンテーションを通じて聖学院大生のボランティア活動の取り組みを理解した。また、地域の来場者の皆さんとの交流を通じて、聖学院大学周辺の地域貢献活動への理解を深めた。

実施日：2017年6月24日(土)11:00~17:30

参加者：6期生5名、5期生3名、4期生1名、3期生1名 参加者計10名

内容：・助成金審査会の運営

- ・応募団体(学生)、来場者(地域の方)との交流

### ④ 「学内外のボランティア活動を知る振り返り」&「改めて“ボランティア”について考える」

「ボランティア・まちづくり活動助成金公開審査会」を振り返りながら、「ボランティア活動助成金」の仕組みをもっと学生に活用してもらうためのアイデア出しを行った。そして後半では、学生スタッフとして実際にどのようにボランティア活動を紹介していくのか、ロールプレイを行った。

実施日：2017年6月26日(月)18:00~20:30

参加者：6期生4名、4期生2名、3期生1名 参加者計7名

内 容：・助成金審査会の運営ふりかえり

- ・ボランティア・まちづくり活動助成をより学生に活用してもらうためのアイデア出し
- ・自己紹介とアイスブレイク
- ・ワーク：「友人にボランティアについての相談を受けたら」（コーディネーターロールプレイ）
- ・参加者全員で共有

## ii)成果と課題

- ・ボランティア活動実践者どうし、お互いの意見を否定せず活かす姿勢でワークに臨み、問題を共有し、お互いの意見の中に、お互いの活動の解決策を見出していた。
- ・サポメンになることに迷いを感じながら受講した学生も、ボランティアに関するワークを重ねるうちに、「同じ学生だからこそ、できるサポートがある」という手ごたえを得て、講座終了時には、自らサポメンになる決意ができていた。
- ・助成金審査会の運営に参加し、来年に向けての改善策を話し合うときには、「申請団体をどう支援するか、学生と地域の皆さんをどうつなげるか」といった視点があり、すでにサポメンの自覚が生まれていた。
- ・養成講座のプログラムはうまく機能していると考えられる。課題としては、サポメンになることに自信がなく、講座受講を迷う学生に対し、どう対応するか。現役サポメンとの交流の機会を増やし、敷居を低くすることが鍵になると思われる。



※「学生サポートメンバー養成講座実施レポート」は資料編 56 ページに掲載

### (3) 視野を広げるボランティア教養講座の実施

社会の課題と向き合うための教養講座を立ち上げ、学生たちとともに社会の諸問題と向き合い、学ぶ機会を持っている。

#### i) 「人間回復への道～ハンセン病から学ぶ～ハンセン病勉強会と資料館見学会」

ハンセン病は感染力が弱く非常にうつりにくい病気である。しかし、治療薬がない時代には変形をおこしやすいことから主に外見が大きな理由となり社会から嫌われてきた。強制的に療養所に入れられた患者は外出を禁止され、隔離されてきた。第二次世界大戦後、完治する治療薬が登場しても、実質的な隔離状態が続いた。

今日では、この隔離状態は解かれ、回復者たちには社会復帰の道が開かれているものの、今なお世間の無理解や偏見が続いている。

「人に偏見を持ち差別をする」といった過ちを繰り返さないためにも、この歴史的事実を「他人事ではなく、自分たちの問題」として捉え、考える時間を学生や教職員と持った。

またこの企画は、聖学院中学高等学校図書館との連携のもと実施した。

主催：聖学院中学高等学校図書館／聖学院大学ボランティア活動支援センター

日 時：1 日目（勉強会）2017 年 7 月 24 日（月）18：00～20：30

2 日目（見学会）2017 年 8 月 29 日（火）13：00～17：00

#### ① 勉強会

日程：2017 年 7 月 24 日（月）18：00～20：30

場所：聖学院大学

参加者：聖学院大学 学生 3 名 教職員 2 名 計 5 名

内 容：・関連 DVD 鑑賞  
・感想の共有

② 見学会と意見交換

日程：2017年8月29日（火）13：00～17：00

場所：多磨全生園・国立ハンセン病資料館

参加者：聖学院大学教職員5名、学生5名

聖学院中学高等学校教員1名、職員1名、生徒1名

埼玉県立常盤高等学校教員3名

計16名

内 容：・資料館見学（資料映像の鑑賞含む）

- ・園内散策
- ・森元ご夫妻のお話
- ・感想の共有

案 内：聖学院中学高等学校 西浦昭英教諭

ゲスト：森元 美代治さん（NGO IDEA ジャパン代表）、森元美恵子さん



## 2. 学内の諸ボランティア活動の連絡、協力および支援に関する事業

### (1) 学生サポートメンバー(サポメン!)との連携

学生サポートメンバー(通称:サポメン!)は、聖学院大学におけるボランティアの活性化を目的として組織され、現在はサポメン3期生~5期生を中心に、自分たちにできる活動を検討している。本年度は地域から依頼のあったイベントへ参加した他、「ボラTea」「オープンキャンパスへのブース出展」「全国学生ボランティアと支援者が集う研究集会への参加」等の活動に取り組んだ。また、センター主催で開催された「学内ボランティア団体への助成金審査会」にて、サポメンが交流会の企画・進行を担当し、地域と学内団体との交流の場づくりがなかった。

#### i) ボラTea

学内・外で聖学院生が組織している団体の活動を紹介する場を設けることを目的に、4月、7月の2回実施した。4月はボランティア活動未経験者へのアプローチを意識しつつ、すでに活動中の学生同士の交流もできるような内容で実施した。

##### ① 「新歓ボラTea」

学内・外で聖学院生が活動しているボランティア団体の紹介と勧誘

日時：2017年4月10日(月)18:00~20:00

4月13日(木)15:20~20:00(1部15:20~18:30/2部18:30~20:00)

※その他、4月12日(水)12:10~19:30 ポスター展示による紹介

場所：1号館地下1cafe

内容：アイスブレイク、学科に分かれてフリートーク(新入生と先輩との交流会)、  
学内ボランティア団体によるプレゼンと、ボランティア&何でも相談ブース

発表団体：聖学院大学ボランティアアソシエーション【グレイス】、復興支援ボランティアチーム【SAVE】、STEP、Heart&Smile、FLC、ムーミンの会、サポメン、(外部団体による直接説明：コスモス・アース、伊那谷こども村)

来場者数：学生46名(発表者以外の来場者数18名)、外部団体2名、教職員：2名  
計50名



##### ② 「ボラTea」

学内・外で聖学院生が活動しているボランティア団体の紹介と勧誘

日時：2017年7月5日(水)10:40~13:00

場所：1号館地下1cafe

内容：  
・印象交換ゲーム  
・ボランティアクイズ  
・復興支援活動に取り組む学生によるミニ講演会

- ・ボランティア団体による1分間プレゼン

発表団体：聖学院大学ボランティアアソシエーション【グレイス】、SAVE、STEP.、ボラフェス2017、Heart&Smile、FLC、日本語ボランティア、小学校の学習支援、ボランティア活動支援センター（外部団体による直接説明：コスモス・アース、冒険あそび場たねの会）

福祉施設による食べ物出店：第2川越いものこ作業所、あらぐさ福祉会 労働と教育の場「雑草」

共 催：政治経済学科、欧米文化学科、児童学科、人間福祉学科、こども心理学科

協 力：日本文化学科

参加者数：学生 52名（発表者以外の来場学生28名）

外部団体 9名

教職員 12名

計 73名



## ii) ボラ年会

ボランティア団体同士の交流と親睦を目的に、昨年度に続き忘年会を実施した。食事も栄養バランスの良い品が振る舞われ、みんなで美味しく食べながら交流の時を持った。

日 時：12月19日（火）18:45～20:45

会 場：1号館1cafe

参加者：学生40名

内 容：・アイスブレイク

- ・グループワーク

（今年のボランティア活動を一文字で表すと、来年の抱負）

- ・会食（※協力者である学生ボランティア団体「FLC」と「STEP.」の紹介含む）



### iii) ボランティア・まちづくり活動助成公開審査会の交流会の運営

公開審査会の結果待ちの間、ドネーションに協力して頂いた地域の皆さんと審査会に出場した学生団体との交流会を実施した。今年は2重の輪をつくり、地域の方と学生が1対1でテーマに沿って1分ずつ話すトークフォークダンスというワークを導入したところ、大変盛り上がった。その後、地域の団体からの活動紹介やPRタイムや、発表を頑張った学生達へ、差し入れなどが振る舞われた。

実施日：2017年6月24日（土）

### iv) オープンキャンパスへの参加

※46ページに掲載

### v) 新入生を対象とした宣伝活動

新入生に対し、大学にボランティア活動支援センターがあることと、ボランティア活動の魅力を伝えるべく、入学直後のガイダンス等で、宣伝活動を行った。サポメンの音声を加えたオリジナル映像と、今年も「サポメンジャー」が登場し、ボランティアの魅力を語り、さらに翌週に開催予定のボラTeaの案内を行った。

#### ・活動内容

「学生生活ガイダンス」での動画を使ったセンター紹介

日程：2017年4月6日（木）



### vi) サポメンミーティング、スキルアップ研修実施日程と内容

#### ・ミーティング実施日

毎週1回昼休み、企画に応じて随時ミーティングを行った。

#### ・強化合宿実施日程と内容

実施日：2018年3月13日（火）～14日（水）

場 所：埼玉県民活動総合センター

内 容：・一年間の振り返り

・次年度の活動計画づくり

・4年生からの想いの継承

・次年度「学生生活ガイダンス」でのボラセン紹介内容の検討、撮影

### vii) 行政、市民活動団体との連携

行政や市民活動団体からお声掛けいただき下記の連携活動を行った。

#### ・上尾市消費生活展実行委員会主催「第35回上尾消費生活展」への参加

日程：2017年11月25日（土）、26日（日）

場所：上尾市コミュニティーセンター

内容：サポメンジャーでイベント会場やステージを盛り上げる

着ぐるみボランティア

ステージの司会進行

かえっこバザールの運営補助



**viii) 他大学や地域での活動発表**

大学からお声掛けいただき下記とおり活動発表を行った。

- ・浦和大学「ボランティア論」

日程：2017年7月3日（月）

内容：聖学院大学学生サポートメンバー(サポメン!)の紹介

**ix) 第5回学生ボランティアと支援者が集う全国研究交流集会への参加**

日程：2018年3月3日（土）

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（代々木）

主催：独立行政法人 国立青少年教育振興機構

後援：文部科学省、独立行政法人日本学生支援機構

内容：それぞれ関心のある学生分科会に参加し、全国のボランティアに取り組む学生との交流を図ったり情報交換を行った。さらに、アクションマーケットに出展し、他大学の学生、学校関係者、NPO・市民活動団体に向けて、センターやサポメンの取り組みを紹介した。

**x) 成果と課題**

- ・「新歓ボラ Tea」については、2015年をピークに新入生の来場者が減少しているため、学生サポートメンバーで対策を練り、今年は、クラブ勧誘デーに合わせ、2回実施した。しかし、1日目は新入生の参加が一人だったため、急きょ、サポメンの呼びかけで、学内ボランティア団体一同でミーティングし、開催時間の拡大・場所の周知・広報強化などの対策を打ったところ、2日目は新入生が15名参加した。さらには来場者のほとんどが「やりたい活動がたくさんある」と回答した。その場で入部を申し込む新入生もいた。対策会議における学生の主体的な姿勢・協力体制には底力と可能性を感じた。
- ・「七タボラ Tea」については、アセンブリーアワーの時間に学科共催で実施できたことで、今までのボラ Tea より来場者数が多かった。今後もボラ Tea をする際には学科共催での開催を進めたい。また、初めての試みとして、学園祭で行うボラフェスに出展いただいている福祉施設の煎餅やケーキ、パンの販売を通して施設紹介も行うことができた。ボラフェス以外でもこういったイベントにお招きすることで学生との交流の機会をもつことができ、秋のボラフェスにつながる時間となった。
- ・「ボラ年会」2回目となる今年度は、学生たちが昨年の振り返りを活かし、さらに出会いを広げようと楽しく交流できるプログラムを工夫し、これまで参加したことのない学生に意識的に声かけをした。その結果、1年生を含め、初めての参加者が増え「普段話せない人と楽しく交流ができた」と大変好評だった。また、会食の料理はすべて学生たちで手作りした。食を通じた社会貢献に取り組む学生ボランティアグループの協力のもと、楽しい共同作業となった。仙台で復興支援に取り組む学生からの提供による新米のおにぎりや、ボリュームある惣菜が参加者に喜ばれた。  
今回の企画・運営はサポメンの2年生が中心となって行った。その頑張りが求心力となって、後輩を支えようと3年生・4年生も全員企画から参加し、それぞれの強みを発揮した。課題としては、多忙な学生たちの日程調整が難しく、情報共有や合意形成に時間がかかり、全体進行を担う学生の負担が大きいことがあげられる。

## (2)授業等への協力

聖学院大学では、ボランティアをテーマにした授業が複数実施されている。教員より依頼を受けて、下記の授業にてボランティア活動支援センターの紹介やコーディネーターの職能などについて話をした。

日にち	授業名	対象学生	担当教員	講義内容
5月12日(金)	国際ボランティア論 A	欧米文化学科	金沢はるえ講師	センターの紹介と身近なボランティアについて
5月24日(水)	人間福祉総論	人間福祉学科 1年生	中谷茂一教授	
6月8日(木)	釜石学	全学	渡辺正人教授	震災とボランティアー阪神淡路大震災から東日本大震災を巡って
6月15日(木)				東日本大震災とボランティア活動ー本学も含めて
6月29日(木)				釜石市における復興支援ボランティア活動
11月21日(火)	ボランティア概論 ボランティア論	政治経済学部他 人間福祉学科他	川田虎男講師	ボランティアコーディネーターの役割
12月20日(水)	社会福祉援助技術演習	社会福祉士を目指す2年生	田村綾子教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動をするにあたって</li> <li>・春休みにできるボランティア紹介</li> </ul>

### (3) ボランティア・まちづくり活動助成事業の実施

#### i) 実施概要

これまで以上に活発にボランティア活動に取り組む学生が一人でも増えること、助成金申請を通して、自分たちの「伝える力=プレゼン力や事業計画づくり」を磨くとともに、地域の方々や先輩・教職員等多くの方が応援していることを実感すること、さらに、地域の方々に、学生の活動を知っていただくと共に彼らが行き届く「地域の課題」について知っていただくことを目的として2015年度より本事業を実施している。今年度からは、教育活動の一環として地域にかかわるゼミについても本助成金の活用広めていくこと目指し、名称を「ボランティア活動助成事業」から「ボランティア・まちづくり活動助成事業」と一新して実施した。実施にあたっては本学同窓会と共催し、学生たちへの助成金30万円の支援をいただいた。

また、公開審査会の際には来場者が任意で学生を直接応援できるシステムである「ドネーションパーティ」を導入し、学生と地域の方々が一につながるきっかけづくりに取り組んだ。

#### ii) 実施内容

##### ① 実施スケジュール

日にち	実施内容
2017年 5月22日(月)・ 23日(火)	説明会兼研修会 応募を予定している学生グループを対象に応募概要の説明とプレゼンテーション講習を行った。
6月24日(土)	公開審査会&ドネーションパーティ 第1次審査では申請団体のプレゼンテーションと書類をもとに、審査委員、学生審査委員(各申請団体)が審査、ポイント数によって助成金の交付、未交付を決定。さらに2次審査では交付団体への助成金額を審査委員で話し合い、発表を行った。また、直接学生を応援できるドネーションパーティを開催し、来場者と申請団体との交流会も実施した。
2018年 1月11日(木)	活動報告会 助成金交付団体による活動報告会を実施。審査委員をはじめドネーションパーティに参加した地域の方々にも来場いただいた。審査委員には各活動について講評をいただき、後日学生たちへフィードバックした。

##### ② 審査委員

NO	選出枠	肩書	氏名(敬称略)
1	大学	副学長 ボランティア活動支援センター所長	平 修久
2	大学	ボランティア活動支援センター運営委員 人間福祉学部チャプレン	五十嵐 成見
3	大学同窓会	会長	坂村 哲也
4	ボランティア 応援卒業生	認定NPO法人フローレンス 事務局スタッフ	永松 実梨
5	地域の方	上尾市ボランティア連絡会 会長	本城 文夫
6	地域の方	まちづくり協議会クローバー 会長	須賀 隆夫
7	専門家(NPO関係)	認定NPO法人ハズオン埼玉常務理事	西川 正
8	専門家 (ボランティア関係)	社会福祉法人上尾市社会福祉協議会 上尾市ボランティアセンター	山田 清美

### ③ 申請内容と助成額

NO	団体名	事業名	申請額	獲得ポイント	決定額	寄付金	合計
1	聖学院大学ボランティアアソシエーション(グレイス)		30,000円	5	17,000円	15,000円	32,000円
2	復興支援ボランティアチーム SAVE		30,000円	7	20,000円	17,500円	37,500円
3	Heart&Smile	笑顔でつながろう	50,000円	7	25,000円	14,000円	39,000円
4	ムーミンの会	新しいあしがみらいへつながる	50,000円	10	40,000円	14,000円	54,000円
5	Four-Leaved Clover	「食」を通じた海外支援	50,000円	8	32,000円	16,000円	48,000円
6	パワフル kids	しらこぼと遊び広場	45,000円	8	25,000円	13,000円	38,000円
7	アップビー応援隊	アップビー応援隊	30,000円	8	21,000円	10,000円	31,000円
8	福祉教育について考える会 こころの輪「ここ輪」	精神保健福祉に関する普及・啓発/ 公立中学校での公開講座	50,000円	13	50,000円	10,000円	60,000円
9	ぐるぐる上尾シティ	ぐるぐる上尾シティ	50,000円	6	20,000円	11,500円	31,500円
10	STEP.	若い力で東北を笑顔に	50,000円	12	50,000円	17,000円	67,000円
合計				84	300,000円	138,000円	438,000円

### iii) 助成金を受けた主な団体の活動実績

#### ① STEP. 助成額：50,000円

震災当時から宮城県仙台市の復興支援活動を行っている。2017年度はコミュニティ支援として、集団移転地にある遊休農地に「憩いの場」としてベンチや花壇を製作した。また、子どもの居場所作り支援プログラム「ささっこクラブ」の運営に参加し、子どもたちに勉強を教えたり、山形のスキー場への引率・遊び支援を行った。



#### ② パワフルkids 助成額：25,000円

2017年度から、埼玉県から依頼を受け、上尾市にあるシラコバト団地の活性化を目指して、子どもたちの遊び場を提供している。こども心理学科のゼミ生が中心となって、年4回、季節の行事に合わせてイベントを企画し、多世代交流を試みた。



## ③ Heart&amp;Smile 助成額：25,000円

主に上尾市で、子ども・地域・学生のつながりづくりを目的に、イベントの企画・運営を行っている。2017年度は「あげお産業祭」、「子ども☆夢☆未来フェスティバル」、特別養護老人ホーム主催の「健康フェスタ」にブースを出し、遊びを通して多くの人が笑顔で交流できる機会を提供した。



## ④ ぐるぐる上尾シティ 助成額：20,000円

地域振興と多文化共生をテーマとしたプロジェクト。留学生と日本人学生が協力して市内循環バス「ぐるっとくん」の巡回経路にある施設を取材し、上尾市のおすすめポイントを紹介する動画を作成した。上尾市商工課の協力により、あげポタ TV 等を使って発信した。



## iv) 助成事業に関わった方々の声

## ① 申請団体の声

- ・現地のニーズに応じて、初めてコミュニティ支援として「いこいの場作り」を行うことができました。また、たくさんの学生が参加できたことで、子どもたちを遠い場所へ連れて行くことができ、子どもたちが楽しく参加してくれました。(STEP)
- ・地域を活性化させていくにはどのようなことが必要なのか、企画を自分たちで考える楽しさを味わえました。子どもたちから「楽しかった」「次はいつやるの?」という期待の声がありました(パワフルkids)
- ・幅広い年齢の方々と活動することができました。お母さんたちから、たくさんの「ありがとう」の声をいただきました(Heart&Smile)

## ② 審査委員・地域の方の声

- ・地域活動を通して聖学院大学生としての活躍を見ることができました。今はまだ規模が小さいようですが、2年後、3年後のビジョンを持ってもっと大きい目標と活動を目指してください。
- ・卒業後もこの活動を続けていきたいという思いを伺って感動しました。社会人になると実際に活動することは難しいこともあると思いますが、今の思いを大事にしてほしいです。
- ・実際に上尾市役所とやり取りをし、学生視点の、また、ゼミ生の方の国際的な視点から上尾市を見つめるというのは素敵なことだと思います。大学があるこの街の活性化につながる活躍をしていってください。・ゼミでの学びが活動で生かされているのが素晴らしい。

## v)成果と課題

- 2017年度は「ボランティア活動助成事業」から「ボランティア・まちづくり活動助成事業」へと名称変更を行い、教育活動の一環として地域にかかわるゼミに本助成金の活用をお勧めしたところ、新たに3つのゼミから申請があった。留学生が中心に活動するゼミが始めて参加したことも、全体の良い刺激となった。
- 過去に応援される側だった卒業生が、ドネーションパーティに参加して後輩を応援する姿が増え、後輩たちは緊張しつつも嬉しそうで、素敵なサイクルが生まれている。この審査会を機に、地域の方々や卒業生たちに見守られながら、学生たちの活動がますます盛り上がることを期待したい。
- 課題としては、新しい事業のための助成金申請があまりないということが挙げられる。活動の中で感じる「なんとかしたい」を、助成金を活用すれば実現できるという夢を抱けるよう、引き続き支援していきたい。



## (4)聖学院大学復興支援ボランティア交通費補助金

### i)実施概要

オール聖学院フェローシップ（通称：ASF）の「東日本大震災救援・復興募金」の配分を受け、東日本大震災の被災地における復興支援ボランティア活動に取り組む本学の学生に対して交通費の補助を行っている。

#### ① 補助の概要

- 1年間に2回まで東日本大震災に関わるボランティア活動の交通費について、15,000円を上限に補助を行う。
- 補助に当たっては、事前に申請を行い、センター運営委員会にて決定する。
- 補助を受ける者は、「活動証明書」「領収書」「活動レポート」の提出が求められる。

### ii)実績

年間利用件数	のべ33名	
年間補助総額	392,980円	
主な活動先	東北教区被災者支援センター・エマオ（宮城県仙台市）	18名
	三陸ひとつなぎ自然学校（岩手県釜石市）	11名
	田野畑村立若桐保育園/たのはた児童館（岩手県田野畑村）	4名

## 3. 復興支援ボランティア事業

復興支援ボランティアスタディツアー「よいさっ！プロジェクト4」参加レポートより

私は、今回の「よいさっ！プロジェクト4」ではプロジェクトリーダーとして参加しました。プロジェクトリーダーに誘われた時、プロジェクトの規模と参加人数の多さなど、プロジェクトリーダーが背負う責任はなかなか大きいものだと思っていたので、ギリギリまでやるか迷っていました。しかし、プロジェクトリーダーをやろうと思ったきっかけは、「かまっこ★あそびーらんど」でした。前回は行った「サンタプロジェクト」では、「こどもクリスマス会」の企画と進行役をやらせてもらいました。初めてのことで緊張や反省することが多くあったものの、釜石の子ども達が自分たちの考えた企画に、笑顔で、「楽しかった」と言ってくれたことに大きな喜びを感じました。ですから今回も、子ども達が「楽しい」と思えるような場所をつくりたいと思い、企画を進めました。

現地に到着してまず驚いたことは、復興作業が進み以前来た時と景色や、道なりが変わっていたことです。砂利道だったところにしっかりした道ができている、以前更地だったところに、復興公営住宅が建っているなど、町としての基盤である土地や建造物の復興が、自分が思うより早いペースで進んでいました。

今回、さまざまなプロジェクトを行い、いろいろな感情が湧きました。しかし、その感情を自分が発信するには、どう言葉にしていいいかわかりませんでした。その感情がはっきりわかったのは、ふりかえりの会や、他大学さんとのフィールドワークなどの、周りの人の考えを聞いた時でした。新しくなってゆく釜石の街を見て、「これでいいのかな」と疑問に思っていました。なぜそう思ったのか、それを理解させてくれたのは、今回一緒に参加した自由の森学園の高校生でした。「確かに新しい物を建てることは立派な復興だけど、ただ被災前の街に戻していく、津波に対抗するためのことをするだけでいいのかな。世代が変わっていくなら、復興していく街も次の世代の事を考えて変えていく方がいいんじゃないかと思った。」

この意見は私が抱いていた感情の答えの一つだったような感じがして、すごく感動しました。このように私が抱いている感情の答えを、周りの人が同じように抱いていて考えているという体験は、スタディツアーならではのなんだと、改めて気づきました。

今回のツアーだけでなく、被災地へ行くと、思い出す複雑な感情や、新しく抱く感情が多く

あり、なぜかいつも新鮮味があります。そして、毎回多くのことを考えさせてもらっています。今回の尚絅学院大学と敬愛大学、自由の森学園高校と合同で行った宮城県名取市閑上地区でのフィールドワークでも話題として出ましたが、「復興とは何なのか」は私達だけでなく、被災地全体が考えていることだと思います。しかし、私の中では、この疑問に1つの答えができました。それは私が考え出した答えではなく、フィールドワーク中に出た意見の一つです。

「復興とはもがくこと。考え、行動して、失敗してもがくこと。」

この意見が私の中では本当に「復興」の的を得ていると思いました。そして、この意見を含む、多くの面白い意見が今回のツアーで聴けました。

バスのふりかえりで私は、今後も被災地に行ったことがない人に伝える方法を考えるといいました。今回のツアーで釜石市を、もう被災地ではなく、観光地としてとらえた活動をしていいのではと思いました。それを踏まえ、学校生活でできることは、釜石の現状を伝えることと、釜石の良さや観光名所を今まで以上に伝え、釜石のよさをアピールすることだと思いました。それは大変なこともありそうですが、そのためにもがくことが、復興に繋がっていくことなのだと思います。

児童学科2年 前島 沙紀 (2017年8月)

### (1) 東日本大震災復興支援ボランティアスタディツアーの実施

2011年8月より、本学ではボランティアスタディツアーを実施している。今年度は、春、夏、冬と、計3回のツアーを実施した。実施にあたっては、岩手県釜石市を拠点に活動する一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校の現地コーディネート協力と、釜石市の後援を受けている。釜石市とは、2014年1月に連携協定を締結している。

また、ツアーの企画と運営は学内のボランティア団体「復興支援ボランティアチーム【SAVE】」と協働で取り組んだ。

#### i) 桜プロジェクト6

釜石市鶴住居地区における生活再建への支援の一環として学生発案による「桜プロジェクト」が2012年の初めに立ち上がり、さいたま市北区盆栽町にある「清香園」の協力を受け、「盆栽桜を届ける」企画として実現。今回は鶴住居地区長内集会所にて株分け作業を地域の方々と一緒に行った後に、100本贈呈した。さらに、新しく整備された復興住宅における植樹や、仮設住宅から移住した住民との交流会を実施した。

また、今回のプロジェクトは一般学生への募集はせずに、復興支援ボランティアチーム【SAVE】と教職員で実施した。

#### ① 募金活動の実施

復興支援ボランティアチーム【SAVE】が主体となって、盆栽桜購入と植樹のための募金活動を行った。活動には、聖学院高等学校生徒会メンバーも駆けつけ協力してもらった。

- ・募金日時：2017年3月11日(土)
- ・実施場所：JR大宮駅西口
- ・募金総額：33,115円
- ・参加人数：学生12名、聖学院高等学校生徒会5名

#### ② ツアーの実施

- ・ツアー日程：2017年4月15日(土)朝～16日(日)夕方 現地集合・解散
- ・活動場所：岩手県釜石市鶴住居地区
- ・宿泊：4/15 一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校
- ・活動内容：
  - 盆栽桜植樹と地元の方々との交流会（鶴住居地区生活応援センター）  
4月に移転したばかりの鶴住居地区生活応援センターにて地元の方々との交流会や昼食会、釜石小唄を踊ったほか、敷地内にて盆栽桜の植樹を行った。
  - 市内見学  
4月に高台に移転して開校したばかりの鶴住居小学校中学校や世界遺産登録をされている橋野高炉跡等を見学した。
  - 現地の方のお話  
2016年に釜石を直撃した台風10号の被害と復旧について一般社団法人三陸駒舎理事の黍原豊さんにお話を伺った。
- ・参加者数：学生6名、教員2名、職員1名 計9名



## ii) よいさっ! プロジェクト4

震災から2年の2012年8月に復活した釜石の夏の風物詩である「釜石よいさ」に踊り手として参加することと、こどもあそびのイベント「かまっこ★あそびーらんど」の実施をメインとしたプロジェクト。今年度は自由の森学園高等学校の生徒が参加した。

### ① プロジェクト会議の実施

本学（復興支援ボランティアチーム【SAVE】）と自由の森学園高等学校内でプロジェクトリーダーを選出。プロジェクトリーダーと2校の教職員で月1回程度の合同会議を実施。また本学においては週1回ペースでプロジェクトリーダー会議を独自に行った。さらには現地の下見を本学のプロジェクトリーダーと2校の教職員で行い、ツアーのプログラム作りを行った。

- 合同会議：5月20日(土)、6月17日(土)、7月15日(土)
- プロジェクトリーダー会議：5月16日(火)、25日(木)、6月1日(木)、8日(木)、15日(木)、22日(木)、29日(木)、7月6日(木)、13日(木)、20日(木)、27日(木) 毎回2時間半程度 計11回
- 下見：7月8日(土)～10日(月)

### ② ツアーの実施

- ツアー準備会：7月21日(金)
- ツアー事前学習会：7月29日(土)
- ツアー日程：8月4日(金)朝～7日(月)夜
- 活動場所：岩手県釜石市鵜住居町・大只越町・宮城県名取市閑上地区ほか
- 宿泊：8月4日(金)～6日(日)釜石市民交流センター(岩手県釜石市)  
8月6日(日)～7日(月)一景閣(宮城県気仙沼市)
- 活動内容：

一被災地見学と現地の方のお話(釜石港周辺)

2011年3月11日に何か起きたのか。当日釜石の人々が避難した釜石港を見渡す高台にのぼり、一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校代表の伊藤聡さんにお話を伺った。

さらに、釜石市民交流センターにて漁師の佐々木洋裕さんに、漁師の仕事に触れながら震災当時のことやこれまでの歩みをお話しいただいた。

一選択活動①(2つの活動から1つ選択)

i. 鵜住居地区生活応援センター周辺の草刈りと地域住民との交流会

隣接している復興公営住宅の方々やセンターの職員さんとともに草刈りを行った後、食事を通じた交流の場を持った。

ii. 「原木しいたけ再生プロジェクト」のお手伝い

かつて盛んだった原木しいたけ栽培の復活にむけて栽培や林の整備に取り組むプロジェクトのお手伝いを行った。

一「釜石よいさ」への参加（大町～只越町）

震災以前から、釜石の夏の風物詩として行われてきた夏祭り「釜石よいさ」。2013年、釜石の若手を中心に復活させた、この祭りに釜石の方々と共に踊り手として参加した。

一選択活動②

i. 「かまっこ★あそびーらんど」の開催

釜石の子どもたちが思いっきり遊べるイベントを学生中心に運営した。

ii. 「原木しいたけ再生プロジェクト」のお手伝い

一尚絅学院大学、敬愛大学学生・高校生とのフィールドワークと交流会（宮城県名取市）

地元名取市でお茶っこサロン等の活動を継続して行う尚絅学院大学（宮城県名取市）と、震災後から主に宮城県内で復興支援活動に取り組む敬愛大学（千葉県）の学生・高校生と、震災後の津波で甚大な被害のあった名取市閉上地区でフィールドワークを行った。後半は尚絅学院大学に移動し、復興公営住宅自治会長さんや語り部さんのお話を聞いた後、学生・高校生で「復興とは」というテーマで意見交換を行った。

一活動のふりかえり（8/6夜、帰りのバス内）

- ・参加者数：聖学院大学 学生 28名、教員 5名、職員 4名
- 自由の森学園高等学校 生徒 11名、教員 1名
- 合計 49名

③ ツアー実施ふりかえり

ツアー実施に向けた企画の段階からツアーの総括として、復興支援ボランティアチーム【SAVE】と自由の森学園高等学校のプロジェクトリーダーと2校の教職員ともに振り返りの時をもった。

日時：8月28日(月)13:00～16:00



iii) サンタプロジェクト

今回で5回目となる釜石・大槌郷土料理研究会のお母さんたちに教わる郷土料理づくりや、サンタプロジェクトをはじめた2011年から毎年実施している「こどもクリスマス会」など交流をメインとした活動のほか、仮設住宅の清掃、原木しいたけ再生のお手伝いなどを実施した。また、夏に続き自由の森学園高等学校の生徒が参加した。

① クリスマスカードの製作

学生がデザインしたオリジナルのクリスマスカードを製作し、ツアーに参加する学生のメッセージを記入したものを、ツアー中に出会った方々にプレゼントした。



## ② プロジェクト会議の実施

復興支援ボランティアチーム【SAVE】内でプロジェクトリーダーを選出。そのプロジェクトリーダーとともに、週1回程度、企画会議を開催、ツアーのプログラム作りを行った。

- ・企画会議：10月10日(火)、24日(火)、31日(火)、11月6日(月)、16日(木)、21日(火)、28日(火) の毎回2時間半程度 計7回

## ③ 1年生必修授業内でのツアーPR実施

8分のツアー紹介動画を作成し、1年生の必修科目「キリスト教概論」授業を中心に、動画上映とコーディネーターや復興支援ボランティアチーム【SAVE】の学生からツアーの宣伝を行った。

## ④ ツアーの実施

- ・ツアー準備会：11月21日(火)
- ・ツアー日程：12月1日(金)夜～3日(日)夜
- ・活動場所：岩手県釜石市鶴住居町ほか
- ・宿泊：12/1 車中 12/2 釜石市民交流センター
- ・活動内容

―事前学習(12/1夜)

―被災地見学(釜石市役所横の高台、鶴住居地区防災センター慰霊碑ほか)

2011年3月11日に何か起きたのか。一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校代表の伊藤聡さんの案内で、震災当日釜石の人々が避難した釜石港を見渡す高台と当日多くの方が避難しながらも命を失った防災センターの慰霊碑を回った。

―選択活動①(2つの活動から1つ選択)

i. 現地の方々との郷土料理づくり(橋野町 橋野ふれあいセンター)

釜石・大槌郷土料理研究会のお母さん方に釜石に伝わる郷土料理の作り方を伝授いただき、教わったことを後日レシピにまとめてお届けした。

ii. 「原木しいたけ再生プロジェクト」のお手伝い

かつて盛んだった原木しいたけ栽培の復活にむけて栽培や林の整備に取り組むプロジェクトのお手伝いを行った。現地の方に釜石で3月11日に起きた出来事や復興の様子、これからのまちづくりについてお話を伺い、「埼玉の大学生である私たちにできること」を考える機会を持った。

―「みんなでかたっぺし」(鶴住居地区生活応援センター集会所)

現地の方々と1対1で出会い語らいの時をもった。

―選択活動②(2つの活動から1つ選択)

i. 「こどもクリスマス会」(鶴住居地区生活応援センター)

鶴住居地区の子どもたちを対象に学生企画のクリスマス会を行った。

ii. 「仮設住宅掃除ボランティア」

仮設住宅にお住まいの方や現地の高校生とともに仮設住宅の掃除(窓ふき、草刈り)を行った。

―活動のふりかえり(12/2夜、12/3帰りのバス内)

- ・参加者数：聖学院大学 学生28名、教員4名、職員4名、ゲスト1名(※)
- 自由の森学園高等学校 生徒3名、教員1名 合計41名

※金谷京子こども心理学科教授のご親戚で音楽家の広田祐子氏が参加され、郷土料理作り後の食事交流会で演奏を披露いただいた。

## ⑤ ツアー実施ふりかえり

ツアー実施に向けた企画の段階からツアーの総括として、復興支援ボランティアチーム【SAVE】プロジェクトリーダーとともに振り返りの時をもった。

日時：12月21日（木）



## iv) 成果と課題

- ・震災から7年を経て、被災地の様子も復興に向けて大きく変化をしていることを実感する一年となった。釜石では2019年にラグビーワールドカップが開催されることから、会場となる鶴住居地区を中心に、復興住宅や小学校の再建など、新しい建物もたち、仮設住宅についても2017年度いっぱい役割を終えるとのことであった。
- ・2011年から関わり続けている私たちにとっても関わり方の変化を求められる一年となった。例年行ってきた、年末の仮設団地の清掃ボランティアも今年度一杯で終了となった。同時に継続的な関わりの中で、現地の方々との繋がりから生まれる活動もあり、夏の尚絅学院大学とのフィールドワークや冬の地元釜石の高校生が大勢参加して行った、「みんなでかたっぺし」「仮設清掃」等、一方的な支援ではなく、双方向の活動が根付いてきたように感じられる。
- ・今後も、現地の復興とニーズの変化に寄り添いながら、活動を展開していきたい。

## (2) 釜石の高校生×聖学院生による釜石〇〇プロジェクトの実施

このプロジェクトは、コミュニティサービスラーニングⅡの授業活動の一環として、釜石の高校生と受講生の学生が、釜石のまちを盛り上げるプロジェクトの企画を立て、その実現については、ボランティア活動として位置付け活動を展開した。実施に当たっては、一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校（共催）、特定非営利活動法人@リアスNPOサポートセンター（協力）と連携し、釜石市の後援をいただいた。

## i) プロジェクトを考える合宿(コミュニティサービスラーニングⅡ授業の一環)

- ・日程：8月7日(月)―8日(火)
- ・場所：青葉ビル（岩手県釜石市）他
- ・宿泊：8/7 一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校
- ・内容：釜石の高校生の思いを受け、釜石を盛り上げるためのプロジェクトを立ち上げるための現地調査と企画会議。2日間の話し合いを受け、「郷土料理の発信」「小学生への防災講座」を目的とした企画が出来上がった。
- ・参加人数：学生6名（内授業履修者5名）、岩手県立釜石高校生徒5名、教職員1名

## ii) 計画したプロジェクト実現のための準備

## ①「埼玉（大学）×釜石でのネットテレビ会議」

- ・日程：9月23日（土）・10月21日（土）・11月25日（土）・他3回
- ・内容：8月の合宿で企画した内容についての実現に向けた話し合い。最終的に、「小学生への防災講座」のみを実現することとなった。

## ②「釜石を訪問しての集中ミーティング」

- 日程：2018年1月4(木)–5(金)
- 場所：釜石市鶴住居地区生活応援センター他
- 宿泊：1/4 一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校
- 内容：2月に実施する防災講座に向けた、当日の流れや具体的な内容についての詰め、実施先である釜石市立鶴住居小学校との打ち合わせ等
- 参加人数：学生3名、岩手県立釜石高校生徒5名、教員1名

## iii)防災講座の実施

東日本大震災がおきた時、小学4年生で中学生に手を引かれながら津波から避難して命を助けてもらったとの思いから、「次の世代に命を守る大切さを伝えることが自分たちの役割」と考えた高校生の思いをもとに、津波てんでんこの考え方を始め、津波への理解や心構えを伝える防災講座を、当時の自分と同じ、釜石市立鶴住居小学校の4年生に向けて実施した。

- 日程：2月26日(月) 前日リハーサル  
2月27日(火) 防災講座の実施・これまでの活動のふりかえり
- 場所：釜石市立鶴住居小学校
- 宿泊：2/26 一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校
- 内容：震災当時小学生だった時の記憶をもとに、震災当日どのように津波から逃げたのかを紙芝居にして伝えるとともに、津波への理解と避難の大切さについて、クイズ形式で学んだ。
- 参加人数：学生3名、岩手県立釜石高校生徒5名、教職員2名
- 備考：多くのメディアで注目され、NHKのおはよう日本を始め、岩手朝日テレビ、テレビ岩手、岩手めんこいテレビ、エフエム岩手、河北新報、毎日新聞、共同通信、岩手日報、朝日新聞、埼玉新聞、復興釜石市新聞、釜石市広報課からの取材があり報道された。



## (3)「東日本大震災を覚えて～礼拝と集い～」の実施

震災から6年となる2017年3月11日に、東日本大震災で亡くなった方、また現在も復興に向けて努力されている皆様に覚え、祈りの時とこれからを共にどう歩いていくかを考える機会を持った。

### i)実施概要

実施日：2018年3月9日(金) 14:00~15:00

実施場所：1号館地下1cafe

参加者数：約20名

### ii)実施内容

- 復興支援に関わる学生たちの報告  
復興支援ボランティアチーム【SAVE】、STEP.、釜石の高校生によるプロジェクト
- 聖学院大学の今後の被災地(特に釜石)との関わりについて  
ボランティア活動支援センター平所長、学生代表

- ・学生代表によるお祈りと発災時刻に合わせ 14 時 46 分に全員で黙祷

#### (4)釜石小委員会の実施

東日本大震災から 7 年が経ち、釜石の様子もラグビーワールドカップ 2019 の実施に向けて急速に変わろうとしている中、聖学院大学として今後釜石とどのように関わっていくかについて、学生・教員・職員で検討を行った。結論として、2019 年度以降も一定数の学生の希望がある限りツアーを継続していくこと、また交通費補助などを活用し、より小規模かつ多様な関わり方（ゼミ・プロジェクト等）を模索していくこと、地元の高校生との協働プロジェクトや被災地インターンシップ等、新たな動きを周知、充実させていくことを確認した。また、埼玉で行える活動についても今後模索し実現していくことを確認した。

##### i)第 1 回釜石小委員会

- ・日時：2018 年 1 月 16 日（火）18:40~20:00
- ・場所：1 号館 1 階 1103 室
- ・内容：今後の釜石の変化と大学・学生としての関わり方について
- ・参加人数：教員 2 名、職員 2 名、学生 2 名

##### ii)第 2 回釜石小委員会

- ・日時：2018 年 2 月 1 日（木）11:00~12:10 13:00~15:00
- ・場所：1 号館 1 階 1103 室
- ・内容：2019 年以降を見据えた具体的な連携のあり方について
- ・参加人数：教員 3 名、職員 2 名、学生 3 名

#### (5)関連機関との連携

##### i)聖学院中学高等学校高校生徒会主催「あれから 7 年 今僕たちにできること」への協力について

高大連携の一環として、聖学院中学高等学校の高校生徒会より、東日本大震災を覚える時間を持ちたいという相談を受け、企画や運営について支援を行った。

- ・日程：2018 年 3 月 12 日(月)
- ・内容
  - 震災関連映像上映
  - 大学での取り組み紹介
  - 大学生による被災地の現状報告と活動紹介（協力：復興支援ボランティアチーム【SAVE】、STEP）
  - 高校生による震災ボランティア体験報告
  - 今、自分たちに何ができるかグループワーク



## ii)「東日本大震災を風化させないプロジェクト」の実施について

2015年3月11日に聖学院中学高等学校生徒会企画の「2015.3.11 いま僕たちにできること」への運営協力がきっかけとなり、学生が次世代(高校生)に東日本大震災を語り継ぐプロジェクトを実施している。

日にち	場所	実施内容	実施体制
2017年 5月29日	松実高等学園	被災地の現状報告を活動紹介と「被災地のために、また震災の風化を防ぐために私たちができることは何か？」をテーマにワークショップ 参加者：高校1年生40名、 2年生40名、教員2名	学生4名 職員1名

## (6)学生団体:復興支援ボランティアチーム【SAVE】による復興支援活動

### i)活動概要

東日本大震災がきっかけとなり立ち上がった復興支援団体で、岩手県釜石市を拠点として、さいたま市盆栽町にある清香園の協力を得て盆栽桜のお届けと植樹を行う「桜プロジェクト」、釜石の夏祭り「釜石よいさ」への参加をメインに活動する「よいさっ!プロジェクト」子どもクリスマス会など交流活動を行う「サンタプロジェクト」といった活動をボランティア活動支援センターと連携して実施している。活動を通じて現地で聞いたお話を教訓として、地域防災に活かすこと、学内での報告会を開催しているほか、募金活動を通じて東日本大震災に限らず自然災害で被災した各地域の現状を多くの人に知ってもらうことを目標に活動している。

さらに今年度は、テレビ埼玉「ニュース930」に生出演し、活動紹介と「釜石よいさ」の踊りを披露した。

### ii)活動年表

日程	活動内容
2017年 4月15日-16日	復興支援ボランティアスタディツアー「桜プロジェクト6」実施
4月22日	女声コーラスグループ「グリーン」チャリティコンサート時に東日本大震災復興支援活動のための募金活動を実施
5月26日	テレビ埼玉「ニュース930」生出演
8月4日-7日	復興支援ボランティアスタディツアー「よいさっ!プロジェクト4」実施
10月28日	大学創立記念音楽会において東日本大震災復興支援活動のための募金活動を実施
11月3日-4日	ヴェリタス祭(学園祭)にて模擬店出展
12月1日-3日	復興支援ボランティアスタディツアー「サンタプロジェクト7」実施
12月16日	上尾市大谷地区自主防災会と大学共催の「防災講座」にて活動報告 大学間連携災害ボランティアシンポジウム参加
2018年3月9日	「東日本大震災を覚える集い」実施
3月11日	復興支援ボランティアチーム【SAVE】による「桜プロジェクト7」実施のための募金活動
3月12日	聖学院高校生徒会主催「あれから7年 いま僕たちにできること」にて活動報告

・活動メンバー：35名(2018年3月現在)

**(7)学生団体:STEP!による復興支援活動****i)活動概要**

日本キリスト教団東北教区被災者支援センター・エマオを通じて仙台市を拠点に農家の方々のお手伝いや地域の子どもの勉強のお手伝いや遊びを通じて、地域の方々の交流を育む活動を行っている。

**ii)活動年表**

日程	活動内容
2017年 4月22日	女声コーラスグループ「グリーン」チャリティコンサート時に東日本大震災復興支援活動のための募金活動を実施
5月20日	日本基督教団東北教区被災者支援センター・エマオを通じて農作業支援を実施
7月1日	日本基督教団東北教区被災者支援センター・エマオを通じて農作業支援を実施
8月4日-5日	日本基督教団東北教区被災者支援センター・エマオでの夏のワーク第1陣
8月8日-10日	夏のワーク第2陣
9月20日-23日	夏のワーク第3陣
10月28日	大学創立記念音楽会において東日本大震災復興支援活動のための募金活動を実施
12月16日	上尾市大谷地区自主防災組織と聖学院大学共催の「防災講座」での活動発表
12月28日	「ささっこクラブ」お手伝い
2018年 3月9日	「東日本大震災を覚える集い」実施
3月12日	聖学院高校生徒会主催「あれから7年 今僕たちにできること」にて活動報告

・活動メンバー：18名（2018年3月現在）

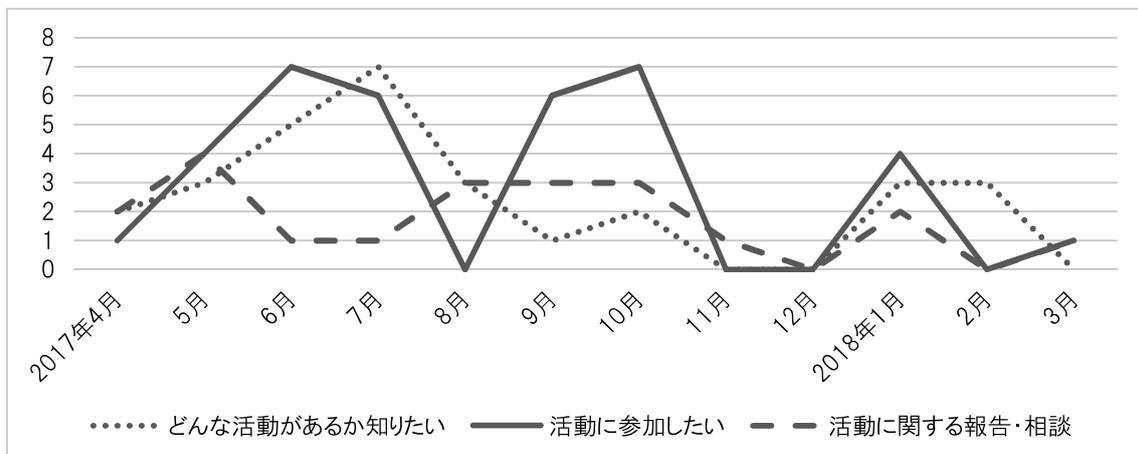
## 4. 学外のボランティア活動の紹介とその活動の支援に関する事業

### (1) ボランティアコーディネート業務

大学1号館地下1階“地域共生広場1cafe”の相談窓口にて、平日12:10～16:30はボランティアを希望する学生の相談や、学生ボランティアを募集したい近隣諸団体のボランティア担当者から相談などを受けた。ボランティア活動への一歩が中々踏み出せない学生の後押しや、ボランティア活動への参加を希望する学生と活動先のマッチング、活動のステップアップのフォローなど、多岐にわたる相談に応じてきた。

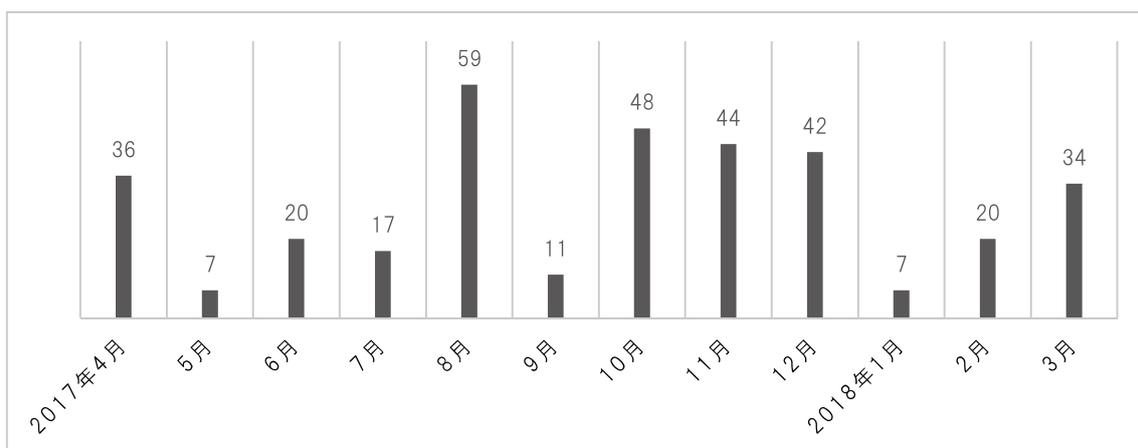
#### i) 個人ボランティア相談件数と相談内容

相談件数 86 件内訳



#### ii) 新規ボランティアマッチング件数と活動内容

① 月別マッチング者数 のべマッチング件数 345 件内訳



## ② 主なマッチング先

月	マッチング先
4月	センター主催：復興支援ボランティアスタディツアー「桜プロジェクト6」 学生団体主催：Four Leaved Clover「カフェ“シェア”」 県内：NPO 法人コスモス・アース、てらこや新都心 県外：NPO 法人リトルポケット・あとりえふぁんとむ、 女声コーラス“グリーン” 25周年コンサートでの東日本大震災復興 支援活動のための募金活動
5月	県内：NPO 法人コスモス・アース 県外：NPO 法人 iPledge、 日本基督教団東北教区被災者支援センター・エマオ
6月	学生団体主催：Four Leaved Clover「カフェ“シェア”」 県内：上尾市環境推進大会、NPO 法人コスモス・アース、東埼玉病院 久喜市に冒険遊び場をつくる会・くきぼー 社会福祉法人美鈴会パストーン浅間台
7月	学生団体主催：Four Leaved Clover「カフェ“シェア”」 県内：久喜市に冒険遊び場をつくる会・くきぼー 県外：NPO 法人 greenbird 新城中原チーム 日本基督教団東北教区被災者支援センター・エマオ 一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校
8月	センター主催：復興支援ボランティアスタディツアー「よいさっ！プロジェクト4」 県内：子育て支援センターみぬま、NPO 法人 greenbird 大宮チーム、 しらこぼと夏祭り、てらこや新都心、子ども食堂とまと、 社会福祉法人弘和会若竹ホーム 県外：伊那谷こども村、NPO 法人 greenbird 溝の口チーム 日本基督教団東北教区被災者支援センター・エマオ 一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校
9月	県内：久喜市に冒険遊び場をつくる会・くきぼー、てらこや新都心 県外：日本基督教団東北教区被災者支援センター・エマオ
10月	県内：コミ協フェスタ in 大谷、さいたまKI-TAまつり 2017 2017 江戸里神楽公演学生実行委員会、一般社団法人すくすく広場、 社会福祉法人美鈴会パストーン浅間台 県外：NPO 法人 iPledge
11月	センター主催：ボラフェス 2017 学内：自然災害救援ボランティア活動のための募金活動 県内：第3回さいたま国際マラソン大会、上尾産業祭、上尾消費生活展
12月	センター主催：復興支援ボランティアスタディツアー「サンタプロジェクト7」 県内：上尾市大谷地区防災講座、宮原青年クラブサンタクローズイベント 県外：伊那谷こども村、日本基督教団東北教区被災者支援センター・エマオ
2018年1月	県内：てらこや新都心 県外：伊那谷こども村、一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校
2月	センター共催：医療法人大社会地域活動支援センター「ベルベッキオ」との交流会 県内：尾山台団地「みんなの健康カフェ」 社会福祉法人靖和会つつじの園

	県外：社会福祉法人こうほうえんキッズタウンあとりえ、 児童養護施設生長の家神の国寮、社会福祉法人芳香会青嵐荘 社会福祉法人大胡至聖会特別養護老人ホーム こうふく園 一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校
3月	学生団体主催：防犯ボランティアチームSTOP!パトロール活動 県内：こども☆夢☆未来☆フェスティバル 県外：一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校

ご対応くださった団体の皆様、大変お世話になりました。

## (2)「夏の“ちょっと”ボランティア体験プログラム」紹介キャンペーン

### i)企画内容

各市町村の社会福祉協議会や市民活動センター等では、毎年夏の時期に様々なボランティア活動を体験することができる「夏のボランティア体験プログラム」を開催している。このプログラムの紹介を通じて、一人でも多くの学生にボランティアの機会をつくと同時に、プログラムの周知を通じて「ボランティアは誰でも関わることのできる身近なもの」という雰囲気や大学内に育むことを目指している。現在の傾向としては、春の「新歓ボラTea」をきっかけに活動する学生が多いため、夏は個別相談の中で初めてボランティアに参加する学生を応援していく形をとっている。

### ii)実施内容

キャンペーンのチラシを作成し、主にキリスト教必須科目の授業内でチラシ配布を行い、呼びかけを行った。

### iii)相談者数

- ・相談者数：14名
- ・夏ボラ期間活動者数：のべ40名

## (3)「ボラフェス！2017」の実施

### i)実施概要

実施日：2017年11月3日（金）、4日（土）／10時～15時  
 実施場所：聖学院大学エルピス食堂  
 来場者数：1日目：1042名 2日目：454名 のべ1496名  
 学生実行委員：14名  
 当日ボランティア：4名

### ii)実施内容

#### ① 福祉施設等の活動紹介と商品販売

聖学院卒業生の就職先や、普段学生達がボランティアでお世話になっている福祉施設を中心に  
 にお招きし、活動紹介、ボランティア募集、商品の販売などを行った。

—11月3日（金）出店団体

- ・NPO法人リトルポケットあとりえふぁんとむ
- ・社会福祉法人皆の郷第2川越いものこ作業所
- ・NPO法人みやはら福祉会「ひびき」
- ・社会福祉法人あらぐさ福祉会労働と教育の場「雑草（あらぐさ）」
- ・NPO法人彩の子ネットワーク

- ・NPO 法人みのり
- 11月4日(土) 出店団体
  - ・地域活動支援センターベルベッキオ
  - ・社会福祉法人一麦福祉会 ワークスみぎわ
  - ・NPO 法人みのり
  - ・上尾市社会福祉協議会上尾市障害福祉サービス事業所 かしの木園

#### ②こども遊びコーナー

今年は「ハロウィンのあて」「巨大お絵かき」「ハロウィンの小物入れ」の3つを実施した。1日目は100個用意した小物入れの紙コップはすべてなくなるほど盛況だった。巨大お絵かきコーナーもこどもらしいダイナミックな絵をかいてくれて素敵なアート作品が出来上がった。また、初日に遊びに来てくれた子が2日目も遊びにきてくれるなど、学生にとってもやりがいのあるブースが展開できたようである。

#### ③オレンジリボン運動の啓発活動

・児童虐待に関する統計などの最新データや記事を参考に、勉強会を通して作成した掲示物をエルピス食堂内で展示したり、トイレに啓発ポスターを貼るなどして啓発活動を実施した。掲示物を御覧になった保護者の方が、写真を撮ったりチラシを持ち帰ってくださったりしている光景が何度か見られた。

#### ④ハロウィンフォトフレーム

会場であるエルピス館が正門から遠いため、何か来場のきっかけになる呼び込みアイテムを作ろう！と、ハロウィン仕様の大きなフォトフレームのパネルを作成し、撮影会をしたり出歩いて販売をする際のアイテムとして使用した。家族連れや卒業生、高校生なども撮影してくれていた。

### iii)参加団体・学生の声

#### ①参加団体からの声（一部抜粋）

- ・順調に販売することができ、学園祭も楽しむことができました。学生のみなさんとお話できたことも毎年良い機会と思っています。(施設職員)
- ・色々助かりました。ありがとうございました。お笑いが最高でした。お疲れ様でした。(利用者さん)
- ・今回の学園祭の販売では、色々と手伝っていただきありがとうございました。おかげ様で見事完売できました。(利用者さん)
- ・学生ボランティアさんにミサンガをたくさん売って頂きまして、大変感謝しております。また、職員と学生ボランティアさんとの交流もでき、有意義な時間を過ごせたようです。また、来年も御座いましたら、是非お声かけ下さいませよう、宜しく願い致します。(施設職員)

#### ②実行委員の学生の声（当日の感想から一部抜粋）

- ・最後に本当にいい思い出ができました。仲良くしていただき、ありがとうございました。
- ・本当に楽しくて充実していい思い出ができました。ありがとうございました！
- ・ボラフェス参加できてよかったです。楽しかったです。学生最後の文化祭とてもいい思い出になりました。
- ・学科の違う先輩方と関わりお話を聞ける機会は、数少ないので、今回の経験はとてもよい経験となりました。ありがとうございました。



#### iv)成果と課題

- より来場者の方がブースに足を運びやすいように、フォトフレームを作ったり、ハロウィン仕様のデコレーションにこだわったり、呼びかけに力を入れた結果、初日だけで1000人を超える来場があり、大変盛況であった。
- 今年の実行委員は人間福祉学科の四年生が多く、「卒業前に仲間と一つのイベントを創り上げる喜びを味わう事ができた」との感想が多く見られた。
- ご参加いただく福祉団体の特徴や商品の魅力をさらに理解した上で、学生らが販売の協力をできるとさらにより企画となると思う。また、オレンジリボン運動については、会場参加型の企画を盛り込むなどして、模造紙を見てくださった方の声が聞こえるようにするなど、さらに充実させていきたい。

#### (4)地域イベントへの参画

上尾市やさいたま市等で行われるイベントについて単なるボランティア募集（お手伝い）というステージではなく、企画段階から関わることが増えてきている。学生も担い手の一人としての自覚を持ち参加することで、学生と地域との顔の見える関係が育まれつつある。

##### i)地域イベントへの参加実績と参加内容

日にち	依頼元／イベント名	参加内容	参加人数
2017年 6月25日	社会福祉法人美鈴会パスト ーン浅間台／健康フェスタ	あそびコーナーの企画・運営	7名
8月5日	しらこぼと夏祭り	模擬店出展	13名
10月14日、21日	江戸里神楽公演実行委員会 ／江戸里神楽公演	運営補助	8名
10月15日	上尾市大谷支所／ コミ協フェスタin大谷	アカペラ部によるステージ パフォーマンス	20名
10月22日	さいたま北商工共同組合／ さいたま KI-TA まつり 2017	ベトナム料理の出展、福祉 体験ブースの手伝い、会場設 営・運営	7名
11月11日、12日	上尾市商工課／ あげお産業祭	こどもあそびコーナーの企 画・運営、アカペラ部による ステージパフォーマンス	19名
11月25日、26日	上尾市消費生活センター／ 上尾消費生活展	レンジャー・着ぐるみでの会 場内企画PR、かえっこバザ ール担当	9名
2018年 3月18日	NPO 法人彩の子ネット ワーク／「こども☆夢☆未来 フェスティバル」	あそびコーナーの企画・運営	15名

**(5)行政、市民活動団体との連携事業**

行政や市民活動団体からお声がけ頂き、連携活動並びに学生グループの結成をサポートした。

**i)防犯ボランティアチームSTOP!の立ち上げ支援**

埼玉県 防犯・交通安全課より、「大学生の防犯ボランティアチームを立ち上げないか」と相談があった。ちょうどボランティア報告に来てくれた学生が警察志望だということを知り、防犯ボランティアチームの代表として仲間集めをしてみないかと提案したところ、順調に輪が広がり、下記日程で結成式が執り行われた。今後、週1回程度、大学周辺のパトロール活動を実施していく予定である。

「聖学院大学 学生防犯ボランティア結成・出発式ならびに合同パトロール」

実施日：2018年2月15日（木）14：30～15：00

場 所：聖学院大学1号館地下1cafe

内 容：・開式

- ・あいさつ
  - 聖学院大学学長、副学長（兼ボランティア活動支援センター所長）
  - 上尾警察署長
  - 埼玉県県民生活部 防犯・交通安全課長
- ・陪席紹介
  - 聖学院大学管理部長
  - 警察本部生活安全部生活安全企画課長
- ・パトロール活動資材交付
- ・代表学生による活動宣言代表
- ・閉式

※終了後、上尾警察署員との合同パトロールを実施（15：00～15：30）。さらに、パトロールに関する研修会を実施した（15：30～16：30）

**ii)「地域活動支援センターベルベッキオとの交流会」**

精神障がいを抱えた利用者さんと、福祉を学ぶ学生たちとの交流会を下記の通り実施した。

日 程：2018年2月16日（金）9：30～16：00

場 所：聖学院大学1号館地下1cafe

参加者：学生9名、ベルベッキオメンバー11名 他

内 容：・人間福祉学科教員によるミニ講義「精神保健福祉ボランティアに関する心得」（学生のみ）

- ・グループにわかれて校内で絵を描く（木炭で速写会）・講評タイム
- ・学食体験
- ・アート活動（絵具とボンドを混ぜて、少し立体的な絵を描く）



#### (6)学外団体からの相談対応

今年度は、新規での問い合わせも増え、学生たちの新たな活動がはじまる可能性にあふれた1年となった。

##### i)学外団体相談対応件数 73件内訳

月	来訪	TEL	MAIL	その他
2017年4月		4		
5月	3	6	1	1(郵送)
6月	5	4		
7月	4	5		
8月	2	2	1	
9月		1		
10月	1	4	1	
11月	3	3		
12月	2	3		
2018年1月	3	2	2	
2月	3	1	1	1(郵送)
3月	2	1	1	
<b>合計</b>	<b>28</b>	<b>36</b>	<b>7</b>	<b>2</b>

#### (7)コーディネーターのスーパーバイズ

昨年度のセンター発足時から、コーディネーターの日々のボランティアコーディネーションについて、毎週1回(15分~60分程度)スーパービジョンを実施している。困難な調整事例や課題のある学生への対応方法など、コーディネーターが一人で抱え込まない環境づくりができた。また、複数で課題を検討することで、様々なアイデアが生まれ、よりよい支援や活動につなげることができた。

■スーパーバイズ：毎週1回15分~60分

## 5. ボランティア活動の記録と広報に関する事業

### (1) ボランティア情報の発信(メルマガ・LINE@・ホームページ・facebook・掲示板)

#### i) ボランティア掲示板でのボランティア情報の紹介

大学1号館地下1階“地域共生広場1cafe”に相談窓口とあわせて設置している「ボランティア掲示板」にて、学内外のボランティア情報のポスターを掲示し、学生への周知を行った。

#### ii) メールマガジン・LINE@の配信

センターでは、配信希望者に月1回～3回程度、不定期で「おすすめボランティア情報」をメールマガジンとLINE@で配信している。

#### ・メールマガジン登録者数(2018年3月現在)

学科	1年	2年	3年	4年	合計
政治経済	48	27	10	5	90
欧米文化	15	7	10	8	40
日本文化	11	6	4	12	33
児童	6	14	14	20	54
こども心理	3	9	10	16	38
人間福祉	12	5	14	9	40
合計	95	68	62	70	295

#### ・LINE@登録者数 123名(2018年3月現在)

#### ・メールマガジン・LINE@配信実績

月	配信回数	月	配信回数
2017年4月	4	10月	3
5月	2	11月	1
6月	3	12月	2
7月	2	2018年1月	2
8月	4	2月	3
9月	1	3月	2
		合計	29



## (2) ボランティア活動支援センター広報活動

### i) WEB 上での情報発信

センターの取り組みを外部へ発信することを目的として、ホームページを設置している。日々の活動については、Facebook ページで紹介している。

- ・facebook ページ いいね! の数 : 339 (2018年3月31日現在)

### ii) センター広報ツールの更新

センターの存在を学内外に周知することと、学生のボランティア活動を学内外で紹介することを目的に、ポスター等の広報ツールを作成している。

※製作物は資料編 63 ページに掲載

### iii) オープンキャンパスへの参加

高校生へ、大学生たちの活躍の様子を直接見てもらうことと、ボランティア活動支援センターの存在を知ってもらうため、オープンキャンパスでボランティア活動紹介のブースを実施した。在学中ボランティア活動に取り組んだ卒業生にも駆けつけてもらい、学生時代の経験が今の仕事にどう活かしているかについて語ってもらった。

内 容 : ・ボランティア活動支援センターの紹介

- ・学生ボランティア団体の活動紹介模造紙の展示・説明
- ・フリースペースでの交流
- ・キャンパスツアー対応「アイスブレイク/サポメンによるボラセン紹介/在校生と卒業生によるボランティア Before&After」

対 応 : 学生サポートメンバー、卒業生、ボラセンスタッフ

場 所 : 地域共生広場”1cafe” 他

参加日程 : 2017年5月27日、6月17日、7月22日、8月5日・18日、9月16日、  
10月14日



### iv) 成果と課題

- ・LINE@は、昨年度については年度途中で導入したこともあり、登録者数は学生全体の約5%にとどまった。今年は年度初めから新入生に一齐に告知する機会もあったので、少なくともプラス100名が登録し、全登録者数200名を越えたいと考えていたが、一齐告知後の新入生の登録者数は30名程度と思ったほど伸びなかった。一方、新入生が相談窓口に来た際にLINE@があることを伝え、抵抗感なくその場で登録してくれる。その様子を見ると、一齐告知だけではなく、やはりひとりひとりへの地道な案内が大切であることを実感した。
- ・オープンキャンパスでは昨年度に引き続き、在学生の話に続けて卒業生が語るという流れで行った。高校生や保護者の方も熱心に聞いてくださり、5年間模索してきた紹介スタイルもここで確立することができた。

## 6. その他の事業

### (1) 視察・研修記録

#### i) 視察実績

日にち	視察先と目的	参加人数
11月22日(水)	NPO 法人アクションポート横浜 目的：取り組み内容のヒアリング	コーディネーター1名

#### ii) 研修・勉強会参加実績

日にち	研修先・勉強会名等	参加人数
2017年 5月20日(土)	第2回サービス・ラーニング全国フォーラム 主催：サービス・ラーニング・ネットワーク 会場：日本福祉大学	アドバイザー1名
6月26日(月)	「村井雅清氏、神戸から始まった災害支援に取り組んだ22年間」 主催：中央大学ボランティアセンター 会場：中央大学八王子キャンパス	コーディネーター1名
8月16日(水)	アドバイザー事務局会議 主催：若者への福祉教育研究会 会場：ウエスタ川越	アドバイザー1名
9月7日(木) ～8日(金)	大学ボランティアセンター全国フォーラム2017 主催：大学ボランティアセンター全国フォーラム 2017実行委員会、NPO法人ユースビジョン 会場：明治大学和泉キャンパス	コーディネーター2名
10月26日(木)	若福研大学実践：「サービスラーニング」報告 主催：若者への福祉教育研究会 会場：ウエスタ川越	アドバイザー1名
12月13日(水)	さいたま市ボランティア連絡協議会 ～リオ大会のボランティア事例の講義～ 主催：さいたま市オリンピック・パラリンピック部 会場：大宮JPビルディング	コーディネーター1名 職員1名
12月16日(土)	大学間連携災害ボランティアシンポジウム 主催：大学間連携災害ボランティアネットワーク 会場：東北学院大学土樋キャンパス	コーディネーター1名 学生2名
	大学・短大等における学生ボランティア活動支援者 連絡会議 主催・会場：東京ボランティア・市民活動センター	コーディネーター1名
12月17日(日)	みんなで防災「あの日を語ろう 未来を語ろう」 主催：NPO 法人KIDS NOW JAPAN 会場：ライフコミュニティ西馬込	コーディネーター1名

2018年 1月13日(土)	ボランティアリーダーシップ研修 主催：埼玉県オリンピック・パラリンピック課 会場：浦和コミュニティーセンター	コーディネーター1名 職員1名
2月9日(金)～ 11日(日)	ボランタリーフォーラム TOKYO2018 主催・会場：東京ボランティア・市民活動センター	コーディネーター3名
2月11日(日)	ボランティアフォーラム 主催：日本財団学生ボランティアセンター 会場：TKP 新橋汐留ビジネスセンター	コーディネーター1名
2月17日(土)	ファシリテーションのスタートライン 主催：日本ファシリテーション協会 会場：スクエア荏原	コーディネーター1名
3月3日(土)	第6回学生ボランティアと支援者が集う全国研究 交流集会 主催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 後援：文部科学省、独立行政法人日本学生支援機構 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター	コーディネーター2名 学生5名

## (2)視察受け入れ・活動発表・講師対応・外部委員

### i)視察受け入れ

日にち	来訪団体名	来訪人数
2017年 7月25日(火)	明治学院大学	センター長 職員1名 中高教員2名
2018年 3月7日(水)	NPO 法人アクションポート横浜	職員1名
	NPO 法人埼玉情報センター	職員1名

### ii)活動発表・講師対応

日にち	活動発表先
2017年 5月17日(水)	埼玉県高等学校福祉教育研究会 会場：埼玉県立誠和福祉高等学校 内容：講演「ボランティア活動の可能性」 講師：川田虎男
7月3日(月)	浦和大学「ボランティア論」 内容：ボランティア活動支援センターの役割と学生サポートメンバーの 活動紹介 発表者：川田虎男、学生サポートメンバー2名
7月12日(水)	財団法人いきいき埼玉「ボランティア講座」 会場：日本工業大学 内容：ボランティアの基礎知識 講師：川田虎男
9月7日(木)	大学ボランティアセンター全国フォーラム2017 会場：明治大学和泉キャンパス 内容：聖学院大学ボランティア活動支援センターの取り組みについて 講師：川田虎男

12月13日(水)	明治学院大学 内容：ボランティア実践指導 講師：川田虎男
-----------	------------------------------------

### iii)外部委員

氏名	所属委員会
川田虎男	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉県社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター運営委員</li> <li>・上尾市社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員委員長</li> <li>・上尾市子ども若者支援地域協議会</li> <li>・草加市ふるさとまちづくり応援基金助成事業公開審査会審査委員</li> </ul>

### (3) 学内他部署との連携

#### i)キリスト教センター主催:NSO(New Student Orientation)へのサポートについて

大学で行う、新入生のオリエンテーション行事のひとつである、「NSO (New Student Orientation)」のなかの、学生企画で行う「学生 NSO」について、企画の組み立てから実施を実行委員の学生が主体的に取り組めるよう、相談対応に関わった。

- ・サポート期間：2017年12月～2018年4月
- ・学生NSO日程：2018年4月6日(金)

### (4) 他大学との連携

#### i)大学ボランティアコーディネーター研究会

本研究会は、現在設置が相次いでいる関東圏の大学ボランティアセンターの教職員の研修と情報交換を目的に2013年度に発足し、年1～2回のペースで開催している。

#### ① 大学ボランティアセンターコーディネーター研究会 平成29年度 第一回学習会

日時：2017年9月22日(金) 15:00～18:00

会場：東京ボランティア・市民活動センター

内容：・情報交換会

- 夏の活動や年間を通じた活動の振り返り方法について
- 大学から学生へのボランティア活動の助成金制度について
- ボランティアの教育効果可視化について

参加校：・神田外語大学ボランティアセンター

- ・聖学院大学ボランティア活動支援センター

陪 席：東京ボランティア・市民活動センター



# 資料集

---

## ▶ (1) 聖学院大学ボランティア活動支援センター内規

### 聖学院大学ボランティア活動支援センター内規

(目的)

第1条 聖学院大学(以下「本学」という。)は、聖学院教育憲章内の「神を仰ぎ、人に仕う」、オンリーワン・フォー・アザーズ(他者のために生きる個人)、サーヴァント・リーダーシップなどの精神の具現化のため、キリスト教大学における教育活動の一環として推奨されるボランティア活動の普及に取り組み、本学における諸ボランティア活動を支援するために、聖学院大学ボランティア活動支援センター(以下「センター」という。)を設立する。

(組織)

第2条 センターの活動を円滑に展開するために、次の教職員を置く。

- (1) センター所長 1名
- (2) センター副所長 若干名
- (3) ボランティアコーディネーター及びアドバイザー 若干名
- (4) 事務職員 若干名
- (5) その他学長が大学教授会で指名した者

2 センターの運営は、第3項に規定する聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)によってなされ、センター所長が議長を務める。

3 運営委員会は以下の構成員から構成される。

- (1) センター所長
- (2) センター副所長
- (3) チャプレン
- (4) 聖学院大学教授会代表(数名)
- (5) 聖学院大学学生代表(数名)
- (6) 大学事務局管理部長
- (7) ボランティアコーディネーター
- (8) アドバイザー
- (9) センター職員
- (10) 聖学院大学学長、総局長は必要に応じ陪席できるものとする
- (11) その他、センター所長が必要と認める者

4 第1項第1号に規定されるセンター所長は、学長が指名する。

5 第1項第2号に規定されるセンター副所長は、所長が若干名を指名する。

(事業)

第3条 センターは、第1条の目的を実現するために以下の事業を担当する。

- (1) キリスト教に基づくボランティア精神の育成と普及に関する事業
- (2) ボランティアの人材育成とその担保に関する事業
- (3) 学内の諸ボランティア活動の連絡、協力および支援に関する事業
- (4) 学外のボランティア情報の紹介とその活動の支援に関する事業
- (5) ボランティア基金の育成と経済的支援に関する事業
- (6) ボランティア活動の記録と広報に関する事業

(改廃手続)

第4条 この内規の改廃は、大学教授会の議を経て、学長が決定する。

附 則

この規程は、2013年4月1日から施行する。

附 則

この内規の一部改正(規程形式及び運営委員会の構成員の変更)は、2018年12月17日から施行する。

▶ (2) ボランティア活動支援センター運営委員一覧(2017年度)

センター所長	平 修久	副学長、政治経済学科教授
センター副所長	清水 均	副学長、人文学部長、教授
運営委員	渡辺正人	こども心理学科教授
	金谷京子	こども心理学科特任教授
	五十嵐成見	人間福祉学部チャプレン、助教
	M. サベット	欧米文化学科教授
	坂本佳代子	児童学科特任講師
	西川 正	地域連携・教育センターアドバイザー
	金子朋寛	学生サポートメンバー、人間福祉学科 4 年
	菅野雄大	学生サポートメンバー、こども心理学科 3 年
	森 清	学務部長
	島村宣生	地域連携・ボランティア支援課長
	山田 裕太	地域連携・ボランティア支援課
	川田虎男	ボランティア活動支援センターアドバイザー
	芦澤弘子	ボランティアコーディネーター
丸山阿子	ボランティアコーディネーター	

### ▶ (3) ボランティア活動支援センター運営委員会協議事項

#### 第 57 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2017 年 4 月 5 日 (水) 持ち回り委員会  
・2017 年度ボランティア・まちづくり助成金実施の件

#### 第 58 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2017 年 5 月 10 日 (水) 午後 3 時 20 分～4 時 20 分  
・学生サポートメンバー養成講座実施の件  
・「よいさっ！プロジェクト 4」実施の件  
・「人間回復」への道～ハンセン病から学ぶ実施の件

#### 第 59 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2017 年 6 月 7 日 (水) 午後 3 時 20 分～4 時 20 分  
・ボラ T e a の実施の件

#### 第 60 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2017 年 7 月 5 日 (水) 午後 3 時 20 分～4 時 20 分  
・「よいさっ！プロジェクト 4」参加高校との協定締結の件  
・復興支援ボランティア交通費補助申請の件

#### 第 61 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2017 年 10 月 4 日 (水) 午後 3 時 20 分～4 時 20 分  
・自由の森学園高校との今後の連携の件  
・復興支援ボランティア交通費補助申請の件

#### 第 62 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2017 年 11 月 8 日 (水) 午後 3 時 20 分～4 時 20 分  
・サンタプロジェクト 7 実施の件  
・陸上競技部キッズかけっこ教室実施の件  
・Gakuvo との協定締結の件  
・被災地支援・インターンシップ整備の件

#### 第 63 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2017 年 12 月 6 日 (水) 午後 3 時 20 分～4 時 20 分  
・2018 年度ボランティア活動支援センター事業計画・予算の件  
・Gakuvo の提供講座「体験の言語化」覚書締結の件  
・被災地支援・インターンシップの件

#### 第 64 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2018 年 1 月 10 日 (水) 午後 3 時 20 分～4 時 00 分  
・2018 年度ボランティア活動支援センター事業計画・予算の件  
・「ボランティア体験の言語化」科目新設の件  
・子ども☆夢☆未来フェスティバル協賛依頼の件  
・復興支援ボランティア交通費補助申請の件

**第 65 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会**

日時 2018年2月7日(水) 午後3時20分～4時20分

- ・オリンピック・パラリンピックボランティア啓発事業実施の件
- ・桜プロジェクト実施検討の件
- ・3.11を覚える集い実施の件
- ・復興支援ボランティア交通費補助申請の件

**第 66 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会**

日時 2018年3月7日(水) 持ち回り委員会

- ・2018年度桜プロジェクトの在り方検討の件

**第 67 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会**

日時 2017年3月22日(水) 【持ち回り開催】

協議事項なし

## ▶(4)学生サポートメンバー養成講座実施レポート

### 第3回 テーマ「学内外のボランティア活動を知る」

第3回では、「ボランティア活動助成金公開審査会」へのスタッフ参加をしながら、公開審査プレセッションを通じて聖学院生のボランティア活動の取り組みを知り、実施されている地域活動団体のみなさまとの交流を通じて地域活動への理解を深めました。

○実施日時：6月24日(土)11:00～17:30  
 ○参加者：6期生5名、5期生3名、4期生1名、3期生1名(計10名)  
 ○内容：・助成金審査会の運営  
 ・応募団体(学生、来場者(地域の方)との交流





### 第4回 テーマ「学内外のボランティア活動を振り返り」 & 「改めて“ボランティア”について考える」

第3回を振り返りながら、「ボランティア活動助成金」の仕組みをもっと学生に活用してもらうためのアイデア出しを行います。そして後半では、学生スタッフとして実際にどのようなボランティア活動を紹介していくのか、ロールプレイを行います。

○実施日時：6月26日(月)18:00～20:30  
 ○参加者：6期生4名、4期生2名、3期生1名(計7名)  
 ○内容：・助成金審査会の運営ふりかえり  
 ・ボランティア活動助成金をより学生に活用してもらうためのアイデア出し、自己紹介とアイスブレイク  
 ・ワーク：「友人にボランティアについての相談を受けたら」(コーネィネーターロールプレイ)  
 ・参加者全員で共有





### サポメン養成講座2017(6期生) 実施報告

ボランティア活動支援センターでは、今年も、聖学院生のボランティア活動を盛り上げる「学生サポートメンバー(サポメン!)」養成講座(全4回)を、現サポメンと連携して実施しました。“ボランティア活動の輪を広げたい”という想いに共感してくれた、活動経験のある学生たちが参加しました。

#### 第1回 テーマ「学生サポートメンバーの役割と可能性」

第1回ということで、なぜサポメン講座を実施しているのかボランティア活動支援センタースタッフより説明し、さらに現在サポメンとして活動する先輩より活動の意義と魅力を紹介してもらいました。後半では、学生のボランティアの一歩を後押しする旅を考え、発表。受講生たちは「サポメンになる」その大きな一歩を踏み出しました。

○実施日時：6月5日(月)18:00～20:30  
 ○参加者：6期生5名、5期生1名、4期生2名(8名)  
 ○内容：・サポメン講座趣旨説明(サポメンとボラセンの歴史、役割、願い)  
 ・現役サポメンから「サポメンの活動と魅力」について一言  
 ・参加者全員の自己紹介(アイスブレイク) ※現サポメンがファシリテーションを担当。  
 ・ワーク：テーマ「ボランティアの一歩踏み出せない原因と解決策を考えよう」





#### 第2回 テーマ「みんなでアイスブレイク100連鎖!？」

アイスブレイクの達人「認定NPO法人ハンズオン埼玉」の西川さんをお招きし、「アイスブレイクとは?」というレクチャーのあと、ボランティア先などで使えるアイスブレイクを参加者が実際に進行了しました。

○実施日時：6月12日(月)18:00～20:30  
 ○参加者：6期生5名、4期生2名、ボランティア活動学生5名(12名)  
 ○内容：・自己紹介  
 ・アイスブレイク  
 ・参加者全員で共有





## ▶(5)メディア出演・掲載

■岩手日報:2017年4月16日(日)発行

「鵜住居との絆 桜植樹に託す:埼玉の聖学院大学生」  
著作権により非掲載

■岩手日報:2017年4月18日(火)発行

「津波てんでんこ:交流深めた桜の植樹」  
著作権により非掲載

■復興釜石新聞:2017年4月19日(水)発行

「鵜住居の復興願い17本植樹:聖学院大桜プロジェクト」  
著作権により非掲載

■ テレビ埼玉「ニュース 930」:2017年5月26日(金)放送

復興支援ボランティアスタディツアー「よいさっ!プロジェクト4」の準備の様子を取り上げられたほか、学生たちが生放送に出演し活動への想いを語り、さらには「釜石よいさ」を披露した。

■復興釜石新聞:2017年8月9日(水)発行

「響く『よいさ』燃える釜石:復活から5年目の夏  
震災復興から交流促進へ 躍動35団体1900人」  
著作権により非掲載

■復興釜石新聞 2017年8月19日(土)発行

「郷土料理から釜石の魅力発見：復興支援の聖学院大生と釜石高生 未来や夢も語り合う」  
著作権により非掲載

■岩手日報 2017年11月21日(火)

「高校生 防災講座を計画：釜石の奇跡「児童」の教訓伝えたい  
体験踏まえ小学生に 本年度中の開催目指す」  
著作権により非掲載

■復興釜石新聞 2017年12月9日(土)発行

「結ぶ心 被災地にエール：聖学院大生 鵜住居で交流」  
著作権により非掲載

■毎日新聞 2018年2月28日(水)発行

「震災経験紙芝居に：釜石高生 鵜住居小で防災講座 ○×クイズも 教訓胸に刻む」  
著作権により非掲載

■埼玉新聞 2018年3月8日(木)発行

「絆つないで東日本大震災7年①上尾市の聖学院大 学生の活動

発展に力：被災地の高校生を支援」

著作権により非掲載

※2018年2月27日(火)に実施した釜石の高校生×大学生による防災講座についての報道一覧

■新聞記事

- ・産経新聞 2018.2.27「避難の大切さ紙芝居で訴え 岩手、高校生が児童に授業」
- ・朝日新聞 2018.2.28「次は私たちの番」震災の教訓、高校生が伝える」
- ・岩手日報 2018.2.28「てんでんこ 児童へ継承」
- ・河北新報 2018.2.28「津波てんでんこ 紙芝居で」
- ・共同通信(経由で全国の地方紙)2018.2.28「避難の大切さ紙芝居で訴え、岩手」
- ・読売新聞 2018.2.28「津波てんでんこ 紙芝居で」
- ・復興釜石新聞 2018.3.3  
「てんでんこ」紙芝居で継承～釜石高生 鶴住居小で講座、「逃げる力」の大切さ説く」
- ・河北新報 2018.3.12「<震災7年・10代語り始める>(1)逃げる 学校にいても いなくても」

■テレビ報道

- ・NHK「おはよう日本」2018年3月5日放送のほか、  
テレビ岩手、岩手めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手で取り上げられた。

## ▶(6)広報ポスター各種

### ■学生サポートメンバー養成講座

聖学院のボランティア活動を盛り上げよう！  
「ボランティア活動を応援する人」になる！

## 学生サポートメンバー（サポメン！） 養成講座 2017 受講者募集！！

ボランティア活動支援センターではコーディネーターと協力し、ボランティア活動と学生の架け橋となる「学生サポートメンバー（サポメン！）」として活動するための養成講座を実施します。  
「ボランティア活動を推進するボランティア」に関心のある皆さんの受講をお待ちしています！

**■サポメン！の活動内容(例)**

- ・ボランティア活動の相談にのる
- ・ボランティア活動先を紹介する（相談コーナー）
- ・ボランティアの魅力を発信する（紹介冊子の発行、ボラ Tea の実施など）
- ・他大学の学生との情報交換
- などなど・・・活動は、サポメン！同士で相談して決めています！

**■講座スケジュール**

日 時	内 容
第1回 6月5日(月) 18:00~20:30 「学生サポートメンバーの役割と可能性」	そもそも、学生サポートメンバーの役割とは、また、サポメンとして活動するボランティア活動支援センターとはどのような役割をもつものなのかについて理解を深める。
第2回 6月12日(月) 18:00~20:30 「改めて「ボランティア」について考える」	サポメンとして、どのようなボランティア職を持つのか参加者間で共有する。後半は、ボランティアコーディネーターのロールプレイを行い、ボランティアの魅力を発信できるスキルを学ぶ。
第3回 6月24日(土) 10:00~16:00 「学内外のボランティア活動を知る」 (ボランティア活動推進委員会開催)	サポメンの重要な役割の一つは、ボランティアらしい学生を周囲の活動につなぐことにある。そのためには、紹介する活動の活動について「情報」を知ることが不可欠となる。そこで今回は、大学周辺ではどのようなボランティア活動があるのかを知ってもらう。
第4回 6月26日(月) 18:00~20:30 「学内外のボランティア活動を知る」ふりかえり 「みんなでアイスブレイク100連発!？」	前半では第3回の振り返りを行い、後半は、ボランティア活動の必要となる「アイスブレイク」について実践を通じて学びます。

**■場所 1cafe**  
**■参加条件**  
・今までに何かしらのボランティア経験がある  
・ボランティア活動を広めたいと思っている  
**■定員 10名**

**■受講に関するお問い合わせの申込み**  
ボランティア活動支援センターまで  
TEL:048-780-1705 Mail: vol-sap@seigakuin-univ.ac.jp

サポメン！として活動開始！  
私もやる～かな  
いいね！

### ■「命をいただくということ」

主催：聖学院中等高等学校図書部 / 聖学院大学ボランティア活動支援センター

人生の半分以上を世の中と隔離せよと命をいただく  
種を育てて世の中を元気にしよう  
「命をいただく」とは、命をいただくことではない  
「命をいただく」とは、命をいただくことではない  
「命をいただく」とは、命をいただくことではない  
「命をいただく」とは、命をいただくことではない

## 「人間回復への道 ～ハンセン病から学ぶ～」

～ハンセン病勉強会と資料館見学会～

ハンセン病は感染力が弱く非常にうつりにくい病気です。しかし、治療薬がない時代には変形をおこしやすいためから世に外見が大変な理由となり社会から疎まれてきました。強制収容施設に入られた患者は外出を禁止され、隔離されてきました。第二次世界大戦後、完治する治療薬が登場しても、実質的に隔離状態に置かれてきました。近年になって、この隔離状態は解かれ、元患者は社会復帰の道が開かれています。今も世間の無理解や偏見が続いています。近年になって、この隔離状態は解かれ、元患者は社会復帰の道が開かれています。今も世間の無理解や偏見が続いています。近年になって、この隔離状態は解かれ、元患者は社会復帰の道が開かれています。今も世間の無理解や偏見が続いています。

**■日時 ※どちらか片方の参加も可能です**  
**1日目(勉強会)：7月24日(月)18:00～20:30**  
場所：大学1号館地下1階 1cafe -映画を観賞します  
**2日目(見学会)：8月29日(火)13:00～17:00**  
場所：多摩全生園・国立ハンセン病資料館(東京都東村山市)  
～ハンセン病資料館の見学と多摩全生園の散策をします  
**■参加費 見学会参加の方は500円程度(施設内の喫煙所に立ち寄りです)**

**■問合せ・申込み(主催) 聖学院大学 ボランティア活動支援センター**  
(1号館地下1階 1cafe、もしくは1103教室まで)  
TEL:048-780-1705 E-mail: vol-sap@seigakuin-univ.ac.jp

ハンセン病勉強会と資料館見学会参加申込  
7月24日・8月29日に参加します。(あてはまるものに○をつけてください)  
名前： \_\_\_\_\_ 学籍番号： \_\_\_\_\_  
携帯電話番号： \_\_\_\_\_  
E-Mailアドレス： \_\_\_\_\_

### ■新歓ボラ Tea

(学生サポートメンバー作成)

春が来た、そうだ、  
新しい自分を見つけに飛び出そう!!

## 新歓ボラ Tea

ご入学おめでとうございます。  
と、突然ですが、何か新しいことを始めてみたいみなさん、  
新歓ボラ Teaでは、新しいことにチャレンジしたいという思いにこたえるべく、  
いろいろな経験を積んだ先輩たちがボランティアの魅力を知り、  
そんな先輩に、会いに来てみませんか？  
興味のある人もない人も、気軽によってみてください。  
1cafeでお茶とお菓子を用意してみんなのこと、待ってるよ!

**参加団体**  
・ボランティアアソシエーション・グレイス  
(ボランティア活動支援センター) [90分]  
・STEP (後援者)  
・FloraSociety (ボランティア活動支援センター)  
・FLC (ボランティア活動支援センター)  
・ボランティア活動支援センター (ボランティア活動支援センター)  
・ボランティア活動支援センター (ボランティア活動支援センター)  
・伊勢谷こども村 (ボランティア活動支援センター)  
など

**出入り自由! 申し込み不要 ^v^**  
日時 4/13(木)15:20～18:30(第1部)  
18:30～20:00(第2部)  
場所 1cafe (1号館地下1階)  
内容 聖学院生が活躍する学内、学外のボランティア団体による活動紹介 他、ボランティア&何でも相談コーナー、学科の先輩との交流会など

この期間の参加は無料というみなさんへ  
4/13(木)15:20～18:30のあいだ、1cafe (詳細は裏面)にて  
展示による活動紹介を行っているよ。時間があたら来てね。

お問い合わせは、1cafe ボランティア活動支援センターまで!!  
主催：学生サポートメンバー（サポメン！）、ボランティア活動支援センター

### ■ボラ Tea

主 催：聖学院大学ボランティア活動支援センター  
学生サポートメンバー「サポメン！」  
学科共催：政治経済学科、欧米文化学科、児童学科（1年のみ対象）こども心理学、人間福祉学科  
協 力：日本文化学科

## ボラ Tea

ボランティア活動紹介 & 交流会

この夏、ボランティアしたい学生必見!!  
聖学院大学でボランティア活動に取り組み学生団体による、ボランティア活動紹介 & 交流会を開催します。  
当日は、ボランティアクイズやアイスブレイクなど、楽しい企画が盛りだくさん!  
夏休みにボランティア活動を希望する方はぜひご来場ください。  
コーディネーターによる個別マッチングも随時開催します(^-^)/  
あなたの活動したい分野、場所、この夏の野望・・・etc.  
色々聞かせてください。ベストな活動と一緒に見つけましょう!

## 2017年7月5日(水)

アッセンブリーアワー & 昼休み

サポメン！がご案内します! ☆☆☆スケジュール☆☆☆

10:40～11:10	交流会
11:10～11:20	復興支援活動に 取り組む学生の話
11:25～11:40	ボランティア活動紹介
11:40～13:00	ブース毎に相談会 フリートーク 福祉施設の商品販売

会場：1号館地下1Cafe  
おせんべいやケーキ、パンなどの販売もあります!

お問い合わせ先▶聖学院大学ボランティア活動支援センター(1号館1階1103教室)

■ボラ年会

主催：聖学院大学ボランティア活動支援センター 学生サポートメンバー（サボメン！）  
協力：聖学院大学ボランティア活動支援センター

# ボラ年会 参加者募集！

～ボラ年会的な雰囲気の中で、みんなでワイワイ楽しもう～

お楽しみプレゼント  
おひとり様参加  
大歓迎☆

日時：2017年12月19日(火)  
18:30～21:00

場所：1号館地下1cafe

内容：楽しいゲームあり！美味しい料理あり！  
参加条件：ボランティア経験があれば、どなたでも  
Welcome♡

参加費：無料  
ドレスコード：クリスマスカラーの服を着る物好きで是非お越しください

個人で活動している人も、  
団体で活動している人も、  
楽しく交流して友達増やそうよ！

問合せ：聖学院大学ボランティア活動支援センター（1号館地下1cafe、1103教室）  
TEL：048-780-1705 Email：vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp

■ボランティア・まちづくり活動助成事業  
応募団体募集（チラシ表面）

ゼミ 学友クラブ サークル 各種委員会 有志の集まり 問わず！

# 社会貢献活動で がんばる学生を 応援します！

聖学院大学ボランティア・まちづくり活動助成金

申請期間：5月29日(月)～6月8日(木)  
事前説明会および研修会：5月22日(月)23日(火)  
※いずれか一日

地域・社会貢献活動に頑張る学生たちに、卒業生たち（聖学院大学同窓会）が応援の手を差し伸べ、助成していただきます。  
この機会に自分たちの活動を発表し、資金を得て、より活動を充実させませんか！

【助成額】  
1プロジェクト 最高50,000円  
※6月24日(土)の公開審査会でプレゼン後、助成額を決定。  
【助成対象者】  
地域・社会に貢献する意欲をもった聖学院大学生5名以上のグループであれば、どなたでも(経歴不問)

助成を受けた学生たちの声

- ・大げね本を買って読み聞かせをし、子どもたちの笑顔が見れた！
- ・交通費で自腹を切らなくて済み、活動に参加する人が増えた。
- ・プレゼンテーションのやり方など、事前研修がわかりやすかった。

詳細は  
裏面に  
ご覧ください

申込み・問合せ：聖学院大学ボランティア活動支援センター  
TEL:048-780-1705 E-mail: vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp

■ボランティア・まちづくり活動助成事業  
応募団体募集（ゼミ向け・チラシ表面）

1プロジェクト 最大5万円+α 総額30万円

# ボランティア・まちづくり活動助成

ボランティア活動支援センターでは、2015年度より大学同窓会の協力を得て、ボランティア活動に取り組む学生への助成を行ってまいりました。今年からは「地域とあむ大学」との方針を受け、ゼミ等の教育活動の一環として、地域貢献に関わる活動についても応援していきます。学生たちの企画力やプレゼン力等の実践力を高める機会にもなります。ゼミ、地域×教育の活動費として、本助成金をご活用ください。

助成対象になるゼミ活動例

- ◎地域の子どもたちを対象に遊びひろばや読み聞かせのひろばを開催
- ◎伝統文化を伝えるイベントなど各企画
- ◎各学生による料理を通じた文化交流や地域交流
- ◎NPO・企業・行政と連携した商品開発やイベント企画等

これまでに助成金を受けて活動を展開したゼミ

アゼビー病棟探検(こども心理学科学生ゼミ4組)  
上尾市のゆるキャラ「アッピー」と一緒に市内の保育園・幼稚園を回り、園児との交流を図る上尾市との協働プロジェクト。子どもたちとの関わり方等、音読の学びを活かす機会になっている。

若手奉仕活動(児童学科学生ゼミ4組)  
若手奉仕活動において、3、1と台東区にありあつた地域の復旧・復興活動や仮設住宅での自治体体験を実施。また、地元幼稚園と連携し、子どもたちの遊びのひろば等を企画。被災地の子どもとの関わりを通して学びを深めた。

★助成金を希望する場合は

1. まずは、ボランティア活動支援センターにお話しください。(学生のみでも大丈夫です)
2. 5月22日(月) or 23日(火)の説明会・研修会に参加をお願いします。(申請書もお渡しします)。
3. 6月24日(土)の公開審査会でプレゼン後、助成額を決定します。

問合せ：聖学院大学ボランティア活動支援センター（1号館1階1103室）  
TEL：048-780-1705 Email：vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp

詳細は裏面をご覧ください

■ボランティア・まちづくり活動助成事業  
応募団体募集（チラシ裏面）

2017年度 聖学院大学ボランティア・まちづくり助成金 募集要項

応募資格  
地域へ貢献する意欲をもった聖学院大学の学生5名以上の有志のグループ。  
以下のみなさんは誰でも応募できます。  
① 学内外のボランティア団体  
② ゼミ/アドバイザーグループ  
③ 学友会クラブ・同好会  
④ 各種委員会  
⑤ 有志の集まり

※商店街のシャッター画で絵を描く美術部のボランティア、障がい者にダンスを教えるダンス部等、新しいアイデアを得ています。

助成内容  
※総額 30万円  
① 活動経費助成(運営費補助) 最大 3万円  
② 地域貢献活動助成 最大 5万円  
③ 被災地応援・復興支援助成 最大 5万円  
※ 公開審査会当日、ドネーションパーティによる若干の追加助成の可能性あり

助成対象経費  
活動を行う上で必要な経費全般。ただし、自分たちの飲食代は除く。

応募期間  
2017年5月29日(月)～6月8日(木)

助成対象期間  
2017年5月1日～2018年3月末までの活動に対して助成

申請書・応募方法  
① 説明会・研修会にご参加ください。  
5月22日(月)18:00～20:00 会場:1cafe  
5月23日(火)18:00～20:00 会場:1cafe  
どちらかにご参加ください。申請書をお渡しし、事業企画書の書き方とプレゼンテーションの研修を行います。  
② 必要事項を記入し申請書を6月8日(木)までに、ボランティア活動支援センターにお持ちください。  
③ 6月24日(土)13:00からの公開審査会(会場:1号館1cafeを予定)にてプレゼンをおこないます。

選考方法  
6月24日(土)13:00～の公開審査会で即日決定します。

助成決定  
申込み者は、3分間のプレゼン(発表)+4分間の質疑応答への対応をお願いします。助成金交付団体には、6月29日(木)の昼休み(会場:1cafe)助成金の交付を行います。

報告書の提出と報告会への参加について  
報告書は活動終了後1ヶ月以内の提出となります。(ただし、3月の活動は3月末日)また、2018年1月11日(木)に実施予定の活動報告会にて助成対象事業の報告をしていただきます。

申込み・問合せ先  
聖学院大学ボランティア活動支援センター(1号館1階1103室)  
担当: 数井・川田・伊津  
TEL:048-780-1705 FAX:048-781-0094 Mail:vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp

主催団体  
聖学院大学同窓会 聖学院大学ボランティア活動支援センター  
聖学院大学地域連携推進センター

聖学院大学同窓会会長 坂村哲也さん(2001年度政治経済学科卒業生)より

私たち同窓生にとって、学生のみなさんはかけがえのない財産です。  
多方面でご尽力くださっていること、とても誇りに思います。  
私たちもできる限りのお手伝いは致します。  
皆様のごからの活動が盛り上がるものになりますように、心からお祈りします。

■ボランティア活動助成 ドネーションパーティご案内

## 社会貢献ボランティアで がんばる学生を 応援!

**聖学院大学ボランティア活動助成事業 公開審査会  
&ドネーション(寄付)パーティー開催**  
6月24日(土) 13:30~17:30 (13:00 受付開始)  
聖学院大学 (JR 高崎線・宮原駅から徒歩5分)

聖学院大学では、学生による東北復興支援活動や、地域でのボランティア活動が盛んに行われています。しかし、経済的負担から活動を諦める学生もいます。そこで学生たちの想いのこもった発表を聴いていただき、小さな手を育てるお力をお貸しください。ドネーション(寄付)パーティーを開催いたします。

**【寄付方法】**  
1口1,000円でチケット購入(物品寄付も歓迎!)

**【当日の流れ】**  
・学生ボランティア団体による活動紹介(1団体1分)  
・応援したい団体にチケット投票、即日結果発表  
・学生ボランティアと来場者との交流会(参加は任意)

こんな方にお勧めのイベントです  
・学生たちがどんな地域課題に取り組んでいるか知りたい  
・ボランティアを行う学生と交流したい  
・自分たちの活動に学生たちも来てほしい、学生と一緒に何かしたい

主催・問合せ: 聖学院大学ボランティア活動支援センター 聖学院大学地域連携・教育センター  
TEL:048-780-1705 E-mail:vol@sup.seigaku-u.ac.jp

### ドネーションパーティとは?

地域活動(ボランティア)団体を奨励する資金で支えるという、アメリカで始まった寄付システムの一つです。ボランティアやNPOが団体の面白い活動を報告し、その報告を聴いた人が、それぞれ共感した団体に寄付する取り組みです。

#### 聖学院大学ボランティア学生応援 ドネーション(寄付)パーティー概要

【日時】	6月24日(土)13:30~17:30 (13:00 受付開始)
【趣旨】	聖学院大学では、東日本大震災以降、復興支援活動や地域におけるボランティア活動が大きな盛り上がりを見せています。大学として「地域と学ぶ大学」として、研究・教育・活動を推進し、地域との関わりを深めています。学生たちは、地域の皆さまとの関わりを通して、様々なことを学び、成長の機会をいただいています。しかし、活動を継続するにあたりボランティア費など、経済的負担から活動を諦める学生もいます。そこで2015年度から、様々な学生を応援する「ドネーション(寄付)パーティー」を開催しております。ぜひ、学生たちの想いのこもった発表を聴いてください。
【会場】	聖学院大学1号館地下1階1Cafe
【申し込み】	メール・お電話にてお申し込み。当日飛び込み参加も大歓迎。 主催: 聖学院大学ボランティア活動支援センター TEL:048-780-1705 E-mail:vol@sup.seigaku-u.ac.jp
【当日の流れ】	13:00 受付開始、1口1,000円のチケット交換(任意) 13:30 学生ボランティア団体による活動紹介(1団体1分) 15:00 大学評議会共催の復興助成事業公開審査会、結果発表/ドネーションチケット投票 16:00 交流会(参加は任意ですが、ぜひご参加ください。参加費無料) 17:30 終了 ※時間は目安です。発表する団体数によって変動します。
【寄付方法】	1. お金による寄付 お申し込みで1口1,000円のチケットと交換いただき、学生の発表終了後、応援したい団体にチケットを投票していただきます。 2. 物品による寄付 学生の発表終了後、応援したい団体に物品を直接お預りしていただきます。

■復興支援ボランティアスタディツアー  
「よいさっ!プロジェクト4」

## 夏の復興支援 ボランティアスタディツアー よいさっ!プロジェクト4 参加者募集中!!

自分たちができることは何だろう。釜石の地で考えよう。

■日程: 事前学習会 2017年7月29日(土)13:00~17:00  
ツアー 8月4日(金)朝~7日(月)夜 4日間

■募集定員:25名 ■申込み受付開始:6月20日(月)

■締切:7月14日(金) ※定員に達した際は、初めの人を優先します。

■活動内容:被災地見学、釜石よさこい(夏祭り)への参加、「かまこ★あそびーらんど(こどもあそびのみど)の運営  
他 大学活動学生との被災地見学会と交流会(宮城県)地(予定)

■参加費:19,290円 (内訳:宿泊費(3泊分)、食費(7食分)、プログラム費等 ※バス代は大学負担)  
※ボランティア活動経験に未加入の方は、別途保険料710円が必要です。

■申込方法:所定の参加申込書に必要事項を記入の上、参加費を添えてボランティア活動支援センター(1号館1階1103教室)にて申し込んでください。※参加申込書は、ボランティア活動支援センターで配付しています。

■その他:この夏のプロジェクトには、他校の高校生も参加します。

★「よいさっ!プロジェクト4」について知りたいことあれば、気軽にボランティア活動支援センターまでお話しください!★

主催: 聖学院大学ボランティア活動支援センター 共催: 復興支援ボランティアチーム [D&E]、自由の森学園高等学校  
協力: 一般社団法人三浦ひとづなびと福祉学校 後援: 釜石市

■復興支援ボランティアスタディツアー  
「サンタプロジェクト7」

## サンタプロジェクト7 参加者募集中!!

自分たちができることは何か、釜石の地で考えよう。

■実施期間: 2017年12月1日(金)~3日(日)  
12月1日(金)19:30聖学院大学集合~3日(日)21:00釜石市立大宮原駅まで

■募集定員:30名 ■申込み受付開始:10月30日(月)

■締切:11月17日(金) ※定員に達した際は、初めの人を優先します。

■活動内容:被災地見学、地元のお母さんにおくる贈り物づくり、釜石の方との交流、こどもクリスマス会の運営、仮設住宅の掃除など(予定)

■参加費:9,000円 (内訳:宿泊費、交通費、食費(5食分)等)  
※ボランティア活動経験に未加入の方は、別途保険料710円が必要です。

■申込方法:所定の参加申込書に必要事項を記入の上、参加費を添えてボランティア活動支援センター(1号館1103教室)にて申し込んでください。※参加申込書は、ボランティア活動支援センターで配付しています。

★サンタプロジェクト7について知りたいことあれば、気軽にボランティア活動支援センターまでお話しください!★

主催: 聖学院大学ボランティア活動支援センター 共催: 復興支援ボランティアチーム [D&E]  
協力: 一般社団法人三浦ひとづなびと福祉学校、被災地復興支援活動センター 後援: 釜石市



■「夏のボランティアプログラム」  
紹介キャンペーン告知

2017年7月5日(水)  
～夏季休暇期間中

**新しい自分に、出会う夏。**

**夏の体験ボランティア相談受付中**

夏といのある方と関わる活動  
・障がい者スポーツの運営サポート  
・作業所でクッキーづくり  
・施設や学院内での交流など！

活動者と関わる活動  
・一緒におしゃべり♪  
・一人暮らしの方のお宅を訪問  
・赤十字活動と共に楽しむ

子どもと関わる活動  
・児童館や保育園であそび相手♪  
・キャンプの引率  
・イベントで思いっきり遊ぶ！

聖学院大学ボランティア活動支援センター  
**「相談窓口」**  
 1号館地下 1cafe  
 12:10～16:30

夏季期間中は1103教室(地域連携・ボランティア支援課)にて相談にまいります。  
9:00～17:00  
いつでもお気軽にどうぞ！

■「ボラフェス2017」開催案内

**ボラフェス 2017**

ボランティアでつながろう★

食べ物の販売もあります😊

11/3日(金・祝)、4日(土)  
10:00～15:00  
聖学院大学エルピス食堂(エルピス館1階)

地域の福祉施設さんによる手作り商品の販売 & ボランティア募集  
日頃からお世話になっている志願の福祉施設さんをお招きして、手作り商品の販売や実演、ボランティア募集などをいたします★

フォトブースコーナー  
会場内に、どなたでもご利用いただけるフォトブースコーナーを設けます☆  
#ボラフェス #ヴェリタス祭

児童虐待防止キャンペーン  
～オレンジリボン運動～  
オレンジリボン運動の普及・啓発活動に合わせて、児童虐待に関する啓発の展示を行います。

子どもおそびコーナー  
ゆっくり遊んで、くつろげます♡  
遊びに来てくださいね(♡ ◡ ◡)!

どなたでもお気軽にお越しください(^^)!

主催：ボラフェス2017実行委員会 / 協力：聖学院大学ボランティア活動支援センター

■オープンキャンパス「ボランティア活動紹介コーナー」開催案内

Take Action - Make a difference!

「変わったね！」と言われる  
学生生活を送ろう!!

ボランティアが学内します!!

オープンキャンパスでボランティア活動紹介コーナー開設中★  
是非立ち寄ってみてね!!

聖学院大学ボランティア活動支援センター  
Seigakuin University Volunteer Support Center

★聖学院大学には「ボランティア活動支援センター」があります!

聖学院大学ボランティア活動支援センターは、「神を仰ぎ、人に在り」という建学の精神を実現する機関として、2012年4月に設置されました。聖玉市内の大学ではまだ珍しい、専門的であるコーディネーターが、学生一人一人に合ったボランティア活動をつなぐ、地域への貢献と共に学生の成長を応援しています。

★聖学院大学で出会ったボランティアの魅力 - 学生に聞いてみました -

決まった活動を探さなくてもいい。ゼロから自分自身で活動ができる!  
一人関係学科 4年 金子 朋美さん(埼玉県 大川学園高等学校出身)  
高校生の時にボランティア活動の大切さを学んだ。自分自身で活動したいという思いから、私はボランティア活動の魅力を学ぶために、今年度からボランティア活動の企画・実行を担当。実際に活動する中で、ボランティアの魅力が分りました。自分自身のボランティア活動の経験を通して、企業活動に貢献できる人材として、活動中の経験が活かせるような人材になりたいです。

活動を通じて知識が、将来(就職)にも役立つようになった!  
一般文化学科 4年 佐々木 麻耶さん(埼玉県 大宮中央高等学校出身)  
ボランティアの経験は、社会で働くための準備です。それだけでなく、知識として身につけておくことで、社会で働く際に役立つようになります。ボランティア活動を通じて、社会で働くための準備ができています。ボランティア活動を通じて、社会で働くための準備ができています。ボランティア活動を通じて、社会で働くための準備ができています。

多くの仲間や先輩とつながり、成長した。  
心と脳科学科 4年 野田 拓哉さん(埼玉県 日本学園高等学校出身)  
ボランティアを通して、人と人とのつながりが大切だと学びました。ボランティア活動を通じて、人と人とのつながりが大切だと学びました。ボランティア活動を通じて、人と人とのつながりが大切だと学びました。

★ボランティア活動支援センターから広がるミライ

1. あなたの「やりたいこと」を一緒に探すお手伝いします!  
ボランティア活動支援センターは、専門的コーディネーターが一人一人の「やりたいこと」を聞き出し、実現をサポートします。あなたの「やりたいこと」を一緒に探すお手伝いします。

2. あなたの「思い・思い」を大切にサポートします!  
大学生のボランティア活動の経験は、ゼロから活動を行うよりも、大変なことはありません。あなたの「思い・思い」を大切にサポートします。

3. あなたの「やりたいこと」を一緒に実現する機会や情報提供が出来ます!  
聖学院大学では、センターが得意な分野からボランティア活動の機会です。未経験の方でも、学生サポーター(ボランティアの仲介)や先輩が丁寧にサポートしてくれるので安心して活動に参加できます。

来て! 見て! 聞いて! 感じてみよう! 「ボランティア活動紹介コーナー」へ Let's go!!!

聖学院大学ボランティア活動支援センター  
TEL: 048-760-1705 URL: http://seig-vc.jp/index.html facebook

聖学院大学 ボランティア活動支援センター  
2017 年度事業報告書

2019 年 3 月発行

---

発行

聖学院大学ボランティア活動支援センター

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号

TEL: 048-780-1705

FAX: 048-781-0094

URL: <http://seig-vc.jimdo.com/>

E-mail: [vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp](mailto:vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp)